

# 館林市内遺跡発掘調査報告書

—平成28・29年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査—

|            |            |
|------------|------------|
| 岡野・屋敷前・岡遺跡 | (平28A地点)   |
| 岡野・屋敷前・岡遺跡 | (平28B地点)   |
| 北小袋遺跡      | (平29地点)    |
| 笹原遺跡       | (平29A地点)   |
| 笹原遺跡       | (平29B・C地点) |
| 館林城跡・城下町   | (平29地点)    |
| 間堀1遺跡      | (平29地点)    |
| 四ツ谷袖屋遺跡    | (平29地点)    |



## 例　　言

1. 本書は、平成 28・29 年度に国宝重要文化財等保存整備事業費補助金、群馬県文化財保存事業費補助金を受けて実施した館林市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 本書において報告する遺跡名は、「遺跡台帳」に基づき以下のとおりである。地点名は、平成 28 年度の調査地点は「平 28 地点」、平成 29 年度の調査地点は「平 29 地点」とする。

岡野・屋敷前・岡遺跡　北小袋遺跡　桜原遺跡　館林城跡・城下町

間堀 1 遺跡　四ツ谷袖屋遺跡

3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体者　館林市教育委員会

担当課　文化振興課文化財係

調査組織

| (H28年度)教育長 | 吉間 常明      | (H29年度)教育長 | 吉間 常明      |
|------------|------------|------------|------------|
| 教育次長       | 坂本 敏広      | 教育次長       | 金子 和夫      |
| 文化振興課長     | 岡屋 英治      | 文化振興課長     | 戸叶 俊文      |
| 文化財係長      | 荒川 博一      | 文化財係長      | 阿部 弥生      |
| 係長代理       | 阿部 純生      | 主任         | 奈良 純一(副担当) |
| 主任         | 奈良 純一(副担当) | 主任         | 田沼 美樹      |
| 主任         | 田沼 美樹      | 主任         | 宮田 圭祐(担当)  |
| 主任         | 宮田 圭祐(担当)  | 主事補        | 小林 松嗣      |
| 主事補        | 小林 松嗣      | 主事補        | 小林 里穂      |

4. 調査作業員・整理作業員(50 音順敬称略)

浅川 大三郎　岡部 典行　奥山 なつみ　小曾根 万裕子　小貫 慎子　久保田 憲司

小島 鉄男　島野 京子　杉田 和実　寺嶋 美雪　西谷 義信　原田 和沙

久田 進　前田 清美　三橋 瑞江

5. 出土遺物、調査記録および資料は、館林市教育委員会で保管している。

6. 本書の編集・執筆は、宮田が中心となり行った。

7. 遺物の実測・観察表およびその他の図版作成は、宮田・小貫・原田・前田・三橋で行った。

8. 調査の実施および本書刊行にあたり、下記の方々のご協力をいただいた。ここに記して感謝申しあげる次第である。(順不同、敬称略)

地権者各位　大久保 晴　川島 正一　黒澤 照弘　宮田 穀

群馬県教育委員会事務局文化財保護課　(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　板倉町文化財資料館

館林市都市建設部都市計画課・道路河川課　館林市政策企画部税務課　館林市農業委員会

## 凡　　例

1. 本書における挿図の縮尺は、図中に記した。「出土遺物写真」の縮尺は 1/3 を基本とした。

2. 遺跡位置図等は、平成 22 年度(一部平成 25 年度)発行の館林市都市計画図を用いた。

3. 土層断面および出土遺物の注記に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修「新版土色帖」に従った。一部、調査担当者の目視による判断も含まれる。

## 参 考 文 献

館林市教育委員会 『館林市埋蔵文化財発掘調査報告書』第 1 集～第 54 集

館林市教育委員会 2010 『館林市史 特別編第 4 卷 館林城と中世の遺跡』

館林市教育委員会 2011 『館林市史 資料編 1 館林の遺跡と古代史』

館林市教育委員会 2015 『館林市史 通史編 1 館林の原始古代・中世』

金井忠夫 1997 『利根川の歴史—源流から河口まで—』日本図書刊行会

黒澤照弘 2009 『館林市における土師器皿の変遷—15～17 世紀を中心にして—』『館林市史研究おはらき』

# 目 次

例 言

凡 例

参考文献

目 次

挿图表目次

写真図版目次

第1章 館林市の環境

|                |     |
|----------------|-----|
| 1. 地理的環境 ..... | 1   |
| 2. 歴史的環境 ..... | 1・2 |

第2章 試掘・確認調査の概要

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28A地点） ..... | 3・4   |
| 2. 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28B地点） ..... | 5～9   |
| 3. 北小袋遺跡（平29地点） .....       | 10・11 |
| 4. 笹原遺跡（平29A地点） .....       | 12～14 |
| 5. 笹原遺跡（平29B・C地点） .....     | 15～17 |
| 6. 館林城跡・城下町（平29地点） .....    | 18～20 |
| 7. 間堀1遺跡（平29地点） .....       | 21・22 |
| 8. 四ツ谷袖屋遺跡（平29地点） .....     | 23    |
| 遺物観察表 .....                 | 24・25 |

写真図版

報告書抄録

## 挿 図 表 目 次

|                              |    |                           |    |
|------------------------------|----|---------------------------|----|
| 第1図 館林市の位置 .....             | 1  | 第22図 調査区位置と遺構配置 .....     | 19 |
| 第2図 館林市の地形概念図 .....          | 2  | 第23図 出土遺物 .....           | 20 |
| 第3図 平成28・29年度調査遺跡位置 .....    | 2  | 第24図 間堀1遺跡（平29地点） .....   | 21 |
| 第4図 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28A地点） ..... | 3  | 第25図 調査区位置と遺構配置 .....     | 22 |
| 第5図 出土遺物 .....               | 3  | 第26図 出土遺物 .....           | 22 |
| 第6図 調査区位置と遺構配置 .....         | 4  | 第27図 四ツ谷袖屋遺跡（平29地点） ..... | 23 |
| 第7図 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28B地点） ..... | 5  | 第28図 基本層序 .....           | 23 |
| 第8図 調査区位置と遺構配置 .....         | 6  | 第29図 調査区位置と遺構配置 .....     | 23 |
| 第9図 住居1平面図 .....             | 7  | 第30図 出土遺物 .....           | 23 |
| 第10図 出土遺物 .....              | 8  |                           |    |
| 第11図 出土遺物 .....              | 9  |                           |    |
| 第12図 北小袋遺跡（平29地点） .....      | 10 |                           |    |
| 第13図 調査区位置と遺構配置 .....        | 11 |                           |    |
| 第14図 出土遺物 .....              | 11 |                           |    |
| 第15図 笹原遺跡（平29A地点） .....      | 12 |                           |    |
| 第16図 調査区位置と遺構配置 .....        | 13 |                           |    |
| 第17図 出土遺物 .....              | 14 |                           |    |
| 第18図 笹原遺跡（平29B・C地点） .....    | 15 |                           |    |
| 第19図 調査区位置と遺構配置 .....        | 16 |                           |    |
| 第20図 出土遺物 .....              | 17 |                           |    |
| 第21図 館林城跡・城下町（平29地点） .....   | 18 |                           |    |

# 写 真 図 版 目 次

岡野・屋敷前・岡遺跡（平 28A 地点）

- 1-1 調査区全景
- 1-2 土木重機による掘削
- 1-3 トレンチ 1 精査後（北から）
- 1-4 トレンチ 2 精査後（北から）
- 1-5 トレンチ 3 精査後（北から）
- 1-6 トレンチ 2 土層断面（西面）
- 1-7 調査完了

岡野・屋敷前・岡遺跡（平 28B 地点）

- 2-1 調査区全景
- 2-2 土木重機による掘削
- 2-3 トレンチ 1 精査前（東から）
- 2-4 トレンチ 2 精査前（東から）
- 2-5 住居 1 精査前（東から）
- 2-6 トレンチ 1 土層断面（北面）
- 2-7 住居 1 遺物出土状況（南から）
- 2-8 住居 1 精査後（西から）
- 3-9 住居 1 遺物集中箇所
- 3-10 住居 1 遺物集中箇所
- 3-11 住居 1 遺物集中箇所
- 3-12 住居 2 遺物集中箇所
- 3-13 住居 2 遺物出土状況
- 3-14 住居 2 精査後（東から）
- 3-15 トレンチ 2 精査後（東から）
- 3-16 調査完了

北小袋遺跡（平 29 地点）

- 4-1 調査区全景
- 4-2 発掘作業風景
- 4-3 精査後（北から）
- 4-4 精査後（南から）
- 4-5 深掘部土層断面（西面）
- 4-6 遺物出土状況
- 4-7 土木重機による埋め戻し

笛原遺跡（平 29A 地点）

- 5-1 土木重機による掘削
- 5-2 トレンチ 2 精査前（北から）
- 5-3 As-B堆積状況（南から）
- 5-4 トレンチ 1 精査後（南から）
- 5-5 トレンチ 2 精査後（南から）
- 5-6 発掘作業風景
- 6-7 トレンチ 1 遺物出土状況
- 6-8 トレンチ 1 深掘部土層断面（西面）
- 6-9 トレンチ 2 土層断面（南面）
- 6-10 トレンチ 2 溝 1 土層断面（東面）
- 6-11 地割れ痕土層断面（南面）
- 6-12 地割れ痕（西から）
- 6-13 調査完了

笛原遺跡（平 29B 地点）

- 7-1 調査区全景
- 7-2 土木重機による掘削
- 7-3 精査前（北から）
- 7-4 精査後（北から）
- 7-5 土層断面（西面）
- 7-6 調査完了

笛原遺跡（平 29C 地点）

- 8-1 調査区全景
- 8-2 土木重機による掘削
- 8-3 精査前（南から）
- 8-4 精査後（南から）
- 8-5 土層断面（東面）
- 8-6 調査完了

館林城跡・城下町（平 29 地点）

- 9-1 調査区全景
- 9-2 土木重機による掘削
- 9-3 トレンチ 1 精査前（西から）
- 9-4 トレンチ 5 精査前（西から）
- 9-5 トレンチ 6 精査前（西から）
- 9-6 トレンチ 3 精査後（西から）
- 9-7 トレンチ 5 精査後（西から）
- 9-8 トレンチ 6 精査後（東から）
- 10-9 トレンチ 1 土層断面（北面西側）
- 10-10 トレンチ 3 土層断面（北面東側）
- 10-11 トレンチ 3 土層断面（北面西側）
- 10-12 トレンチ 5 土層断面（南面東側）
- 10-13 トレンチ 5 深掘部精査後（東面）

間堀 1 遺跡（平 29 地点）

- 11-1 精査前（南から）
- 11-2 精査後（南から）
- 11-3 精査後（北から）
- 11-4 土層断面（南面）
- 11-5 土層断面（北面）
- 11-6 土木重機による埋め戻し
- 11-7 調査完了

四ツ谷袖壓遺跡（平 29 地点）

- 12-1 調査区全景
- 12-2 土木重機による掘削
- 12-3 トレンチ 1 精査後（東から）
- 12-4 トレンチ 2 精査後（東から）
- 12-5 発掘作業風景
- 12-6 トレンチ 1 深掘部（東面）
- 12-7 調査完了

出土遺物写真

# 第1章 館林市の環境

## 1. 地理的環境

館林市は、群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央部に位置する人口約8万人の都市である。市域は東西約15.5km、南北約8.0kmと東西に長く、総面積は約60 km<sup>2</sup>である。北は渡良瀬川を隔てて栃木県に、東は邑楽郡板倉町に、南は谷田川を隔てて邑楽郡明和町に接する。明和町の南には利根川が東流し、群馬県と埼玉県の県境となっている。県庁所在地の前橋市までは約50km、東京（台東区浅草）へは約65kmの距離にあり、首都圏との結びつきも強い。

群馬県南東部は、「邑楽・館林」地域と呼ばれ、標高15m台（大島町東部）から33m台（高根町）の平坦な低地である。本市の地形を概観すると、「洪積台地」と「沖積低地」に分けることができる。市街地が立地する「洪積台地」が東西に延び、その周辺に「沖積低地」が広がる。

この「洪積台地」は「邑楽・館林台地」と呼ばれており、太田市高林から本市中央部を東西に延び、隣接する板倉町まで続いている。また、大泉町古海から本市高根にいたる台地の北側に沿って、日本最古（約6～7万年前）の砂丘の一つである埋積河畔砂丘（館林古砂丘）が走っており、本市最高標高点(33.2 m)はこの上にある。

「沖積台地」は、おもに利根川や渡良瀬川によって形成された。台地北側の低地帯には、旧河道、微高地や自然堤防が目立ち、一方、台地南側の低地帯では、茂林寺沼など大小の沼や湿地帯が形成されている。こうした台地や低地などからなる本市の地形は、北西から南東へ向かって緩く傾斜する傾向がみられ、台地面と低地面の比高差も北部で大きく南部では小さくなっている。「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地は樹枝状に開析され、沖積低地に延びる多くの谷地を形成している。そのなかでも市内最大の谷は、本市中央部を東流する鶴生田川および城沼にかけての谷で、台地を南北に二分している。こうした洪積台地の谷には茂林寺沼・蛇沼・近藤沼などの池沼を伴うものが多く、本市景観の特徴の一つとなっている。

## 2. 歴史的環境

館林市内に所在する遺跡は、145ヶ所である。昭和63年刊行の『館林市の遺跡』（市内遺跡詳細分布調査報告書）には、そのうちの144ヶ所について詳細が報告されている。

分布調査による採集遺物から大別した各時代の遺跡数は、次のとおりである（複合した時代の遺物散布地が見られるため、その中心になると考えられる時代でまとめたもの）。

旧石器時代は3遺跡、縄文時代は13遺跡（縄文土器のみ採取できた遺跡）、弥生時代の遺跡は確認されていない（弥生時代の遺物を採取できた遺跡は2遺跡）。古墳時代～平安時代（土師器の出土した遺跡）は97遺跡（うち縄文時代の遺物も採取できる遺跡は24遺跡）、古墳は17遺跡（古墳総数25基）、中世生産址1遺跡、中世城址12遺跡、近世城址2遺跡である。

これらの遺跡の分布は地形的な特徴と大きく関わっており、館林市内に所在する遺跡の時代的変遷と地形的な関わりをおまかに述べると、次のような。

### 《旧石器時代》

この時代の遺跡は、山神脇遺跡や水溜第一地点遺跡・同第二地点遺跡など、邑楽・館林台地の北西に沿って、鞍掛山脈と地元で呼ばれる埋積河畔砂丘（自然堤防）上で多く分布している。また、大袋II遺跡や間堀1遺跡など低地を望む台地の突端の遺跡でも当該期と考えられる資料が確認されている。

### 《縄文時代》

この時代になると、遺跡数が増加し洪積台地上に遺跡が分布する。前期や中期の遺跡は、加法師遺跡や間堀1遺跡など、池沼や谷地を望む舌状台地上の平坦面に集落を形成している。確認できる遺跡数は後期以降減少するが、洪水堆積層の下で確認できることが多く、より低地で痕跡が残される傾向がある。

### 《弥生時代》

弥生時代の構造は確認されていないが、大袋I遺跡や小林遺跡など微高地や台地の斜面等で、遺物などがわずかに確認されている。

### 《古墳時代》

前期の遺跡は少ない。道溝遺跡は洪積台地の斜面からテラス状の微高地に所在しており、この傾向は弥生時代の遺物散布に似ている。中期には遺跡の数が増えるとともに、その所在は台地の斜面から台地上の平坦面へと移行する。後期には遺跡数は増大し、北近藤第一地点遺跡や当郷遺跡など台地上の平坦部に所在する場合が多い。墳墓としての古墳は、推定地も含め33基が残存している（『館林市史 資料編1』参照）。古墳群が2ヶ所あり、一つは日向地区を中心とする邑楽・館林台地上、もう一つは高根地区を中心とする埋積河畔砂丘上にある。そのほかに単独のものも多いが、そのいずれも谷や谷底等をみおろす洪積台地上に所在している。



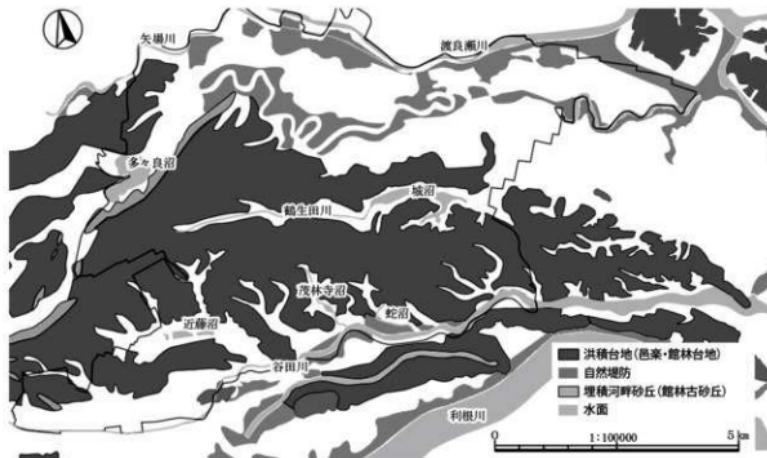
第1回 館林市の位置

### 《奈良・平安時代》

この時代の遺跡は痕跡が多く残る。台地の端部に限定されず遺物の採取ができるところから、この時代以降は台地上に普遍的に集落等が営まれていたと考えられる。

### 《中世・近世》

この時代の城館址については、伝承的な要素が多く実態は判然としない。しかし、谷や小河川などの自然地形を利用し、中世末には館林城が、近世には館林城を中心として城下町が形成され、その町割りは今も残っている。



第2図 館林市の地形概念図



第3図 平成28・29年度調査遺跡の位置

## 第2章 試掘・確認調査の概要

### 1. 岡野・屋敷前・岡遺跡(平28A地点)

遺跡番号 0016  
時代種別 繩文・古墳・奈良・平安(散布地)  
調査地 館林市岡野町字南122-1の一部  
調査原因 集合住宅  
調査期間 平成29年1月13日～1月22日  
調査面積 約90m<sup>2</sup>



#### (1) 遺跡と周辺の環境

「岡野・屋敷前・岡遺跡」は館林市街地の北西にある縄文時代・古墳時代～平安時代の包蔵地である。邑楽・館林台地の北辺で、周辺は畑や住宅地として利用されている。

本遺跡ではこれまでに4地点で調査が行われている。特に昭和56年度に行われた調査では縄文時代後期の住居址が確認されている。

今回届出のあった土地は遺跡の南東付近で、東の谷に面する崖線部の地点であり、基準点の標高は22.766mである。

#### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲とその地形に合わせ、南北方向に3本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。

#### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はI層～IV層である。調査地は北東方向へ傾斜している。

I層は耕作土(層厚約15cm)で、従前はヒマワリ畑であった。赤褐色の土層もあり、水田耕作の硬盤層と考えられる。II層は上部ローム層(黄褐色10YR5/6)であり、粘性ややあり、縮まりあり。一部上部の耕作の影響を受ける。層厚約20cm。III層は暗色帶(暗褐色10YR3/4)であり、粘性・縮まりあり。東側(T1)にいくにつれ薄くなる。層厚約20cm。IV層は中部ローム層(10YR4/6)で粘性・縮まりとともに強い。

#### (4) 確認された遺構

遺構は確認されなかった。

#### (5) 出土遺物

土師器片・陶磁器片など、15点程度出土した。T1の底面から土師器片が1点出土したが、上からの落ち込みと考えられる。I層からの出土、II層でも縮まりのない部分からの出土のみである。

#### (6)まとめ

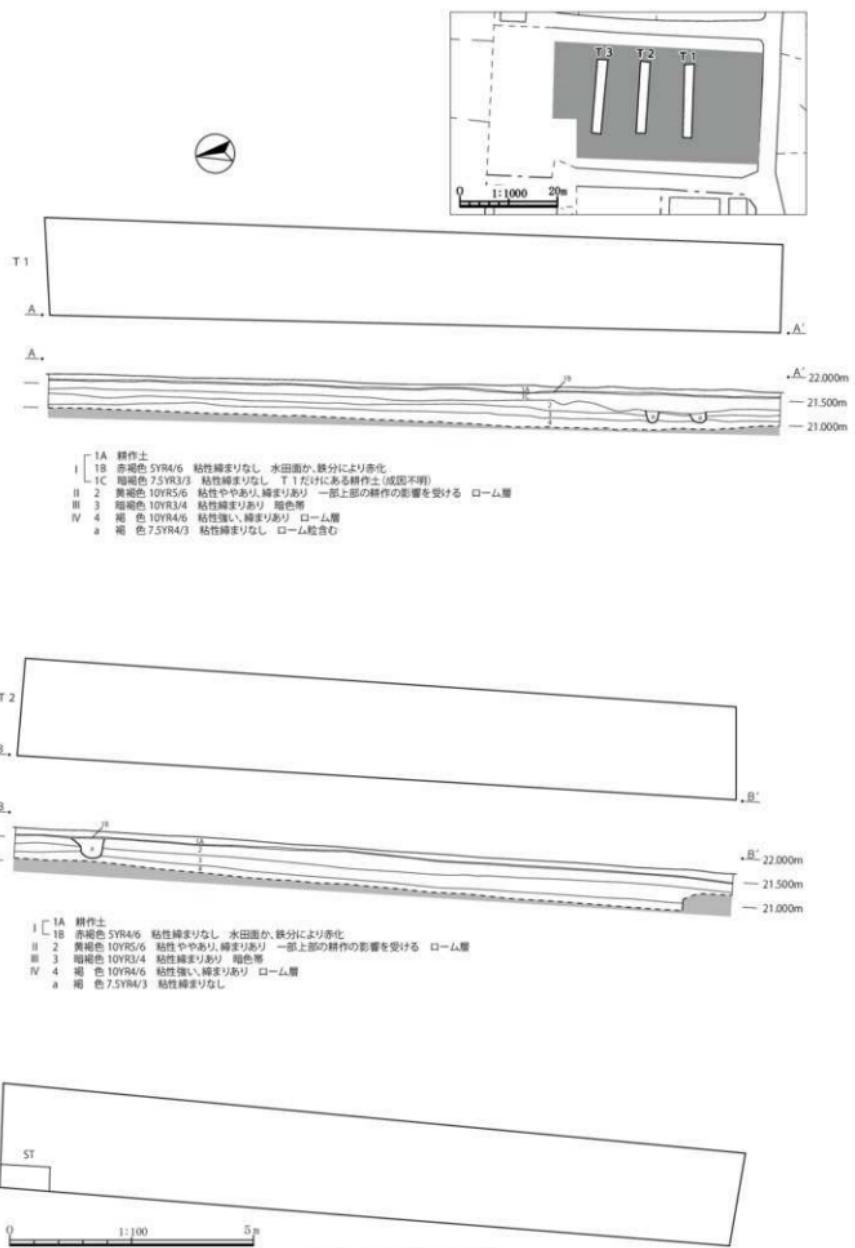
岡野・屋敷前・岡遺跡ではこれまでに4度の調査(昭和56・58、平元・24地点)が行われている。特に、昭和56年度に行われた調査では縄文時代後期の住居址が確認されている。

本地点ではほとんど遺物は出土しなかったが、暗色帶までの深度がT1では表土から約40cm(標高約21.250m)であることと、暗色帶が約20cm堆積している状況が確認できた。西の区画との高低差が30cm程度であることから、恐らく陸田耕作地を造成(拡大)するにあたり、東側へ土を押していくものと考えられる。そのため、上部ローム層の大部分が削平されており、地表より65cm程度で中部ローム層に到達してしまう状況である。

調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認できなかったことから、開発による埋蔵文化財への影響はないものと判断した。



第5図 出土遺物



第6図 調査区位置と遺構配置

## 2. 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28B地点）

遺跡番号 0016  
時代種別 繩文・古墳・奈良・平安（散布地）  
調査地 館林市岡野町字南169-1  
調査原因 その他開発（太陽光発電）  
調査期間 平成29年1月24日～2月7日  
調査面積 約85m<sup>2</sup>

### （1）遺跡と周辺の環境

「岡野・屋敷前・岡遺跡」は館林市街地の北西にある縄文時代・古墳時代～平安時代の包蔵地である。邑楽・館林台地の北辺で、周辺は畑や住宅地として利用されている。

本遺跡ではこれまでに5地点で調査が行われている。特に昭和56年度に行われた調査では縄文時代後期の住居址が確認されている。

今回届出のあった土地は遺跡の南付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準点の標高は23.678mである。

### （2）調査の概要

工事予定区域の範囲で既設された支柱と置かれた資材の間に東西方向に2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。すぐに遺構が確認できたため、既設支柱を避ける形で遺構部分の拡張を行った。

耕作土と考えられる覆土の掘削を重機で行った。特に表土以下の土は土層断面の確認を行いながら掘り下げるとともに平面踏査を行い、遺構・遺物の確認を行った。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。

### （3）基本層序

本遺跡の基本層序はI層～III層である。

I層は耕作土（層厚約20cm）で、上層は機械による填土がかけられている。下層は下部に赤褐色土層が入る部分もあり、水田耕作の硬盤層と考えられる。II層は上部ローム層（黄褐色10YR5/6・ぶい黄褐色10YR4/3）であり、下層は上層に比べ粘性があり、ロームブロックや混じりがある。共に乾燥したローム層である。層厚約10cm。III層は暗色帶（暗褐色10YR3/2）であり、粘性あり、所々締まりが弱いところがある。

### （4）確認された遺構

古墳時代後期の住居址2軒と土坑3基が確認された。両トレンチにおいて、重機によるものと考えられる掘削痕も確認された。住居1は、4.3m×4.3m程度と推測される隅丸方形の住居址で、周溝を伴う。北側の多くの多くが擾乱の影響を受けている。竈は検出されなかつたが、擾乱によりすでに破壊されている可能性もあり、工事の影響で範囲確認が十分に行えなかつたため不明である。住居2は、3.3m×3.6m程度のやや縦長な住居址と考えられる。北側の多くが擾乱の影響を受けているだけでなく、南半分はトレンチの外に続いている。これらも工事の影響により十分に範囲確認が行えなかつたが、セクションの様子から擾乱の影響を受けていると考えられる。住居の北西角に近い位置で焼土は検出されたが、構築材や長胴甕などの出土遺物は無かつた。

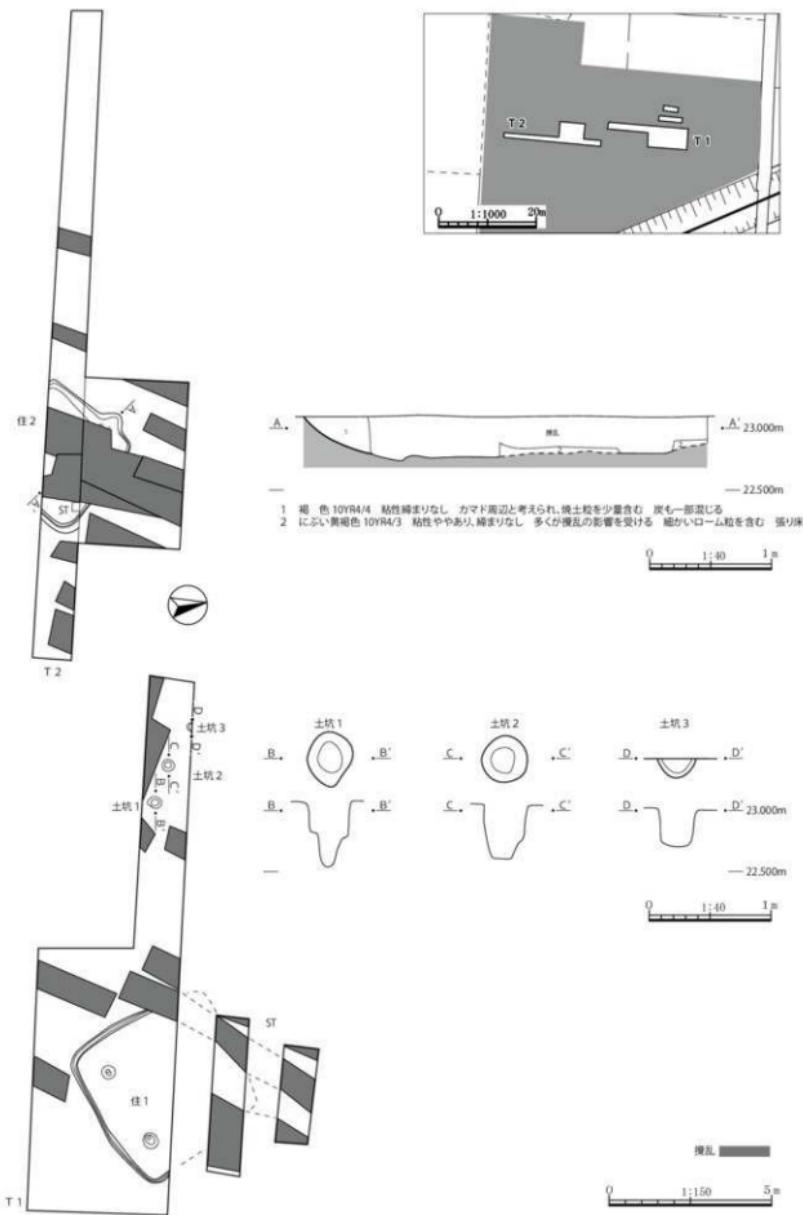
土坑は遺物の出土もほとんどなく、性格・時代ともに不明である。

### （5）出土遺物

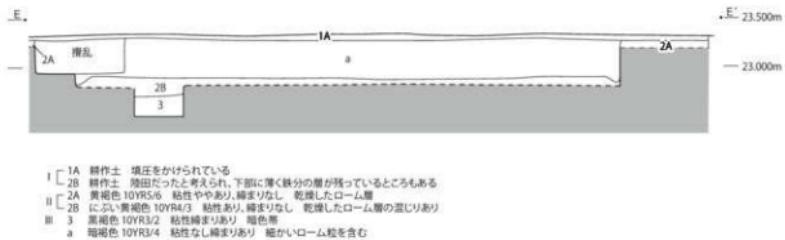
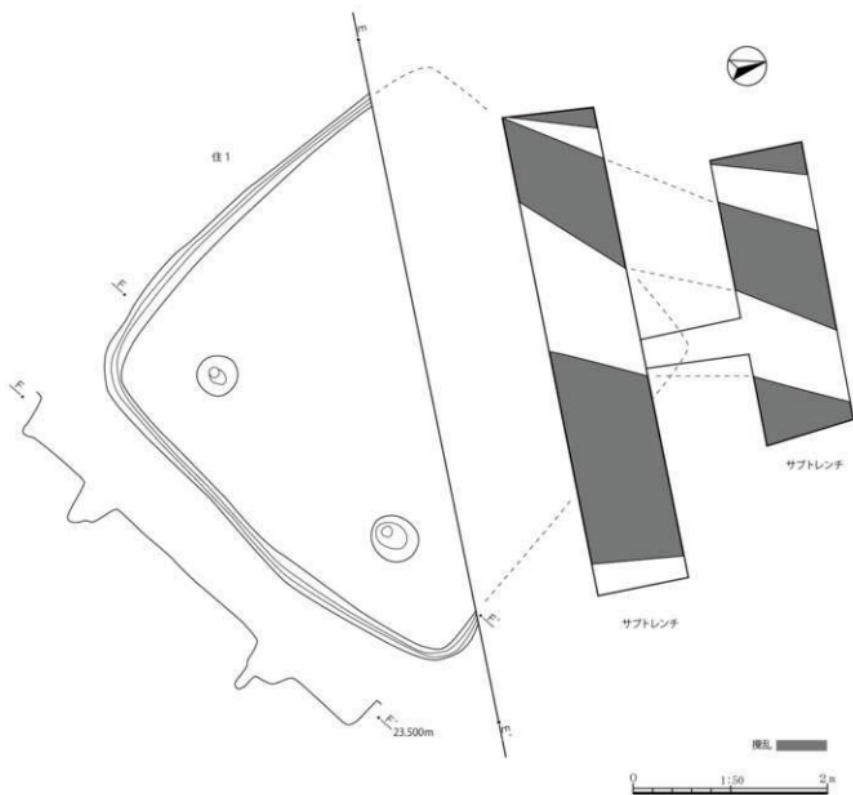
第10図-1～3はいわゆる坏身模倣壺である。特に3は体部と口縁部を明瞭に区画する。また内面は丁寧にナデられ、棒状研磨痕がある。2の底面にはヘラ書きが施されている。4はいわゆる坏蓋模倣壺であり、破片ではあるが胴部は浅い。第10図5～8、第11図-9・10・14・15などは長胴甕であり、形態的特徴から6世紀後葉～7世紀中葉と推定される。5は口縁部と胴部を明瞭に区画している。11は小形甕であり、内面は黒色処理が施される。棒状研磨が認められる。口縁部と胴部を明瞭に区画する。16は臼玉であり、T1の拡張区の擾乱の下から出土した。周辺土を箇にかけたが、出土遺物は1点のみであった。20は縄文時代前期の土器片である。



第7図 岡野・屋敷前・岡遺跡（平28B地点）の範囲と調査地（1/5000）



第8図 調査区位置と遺構配置



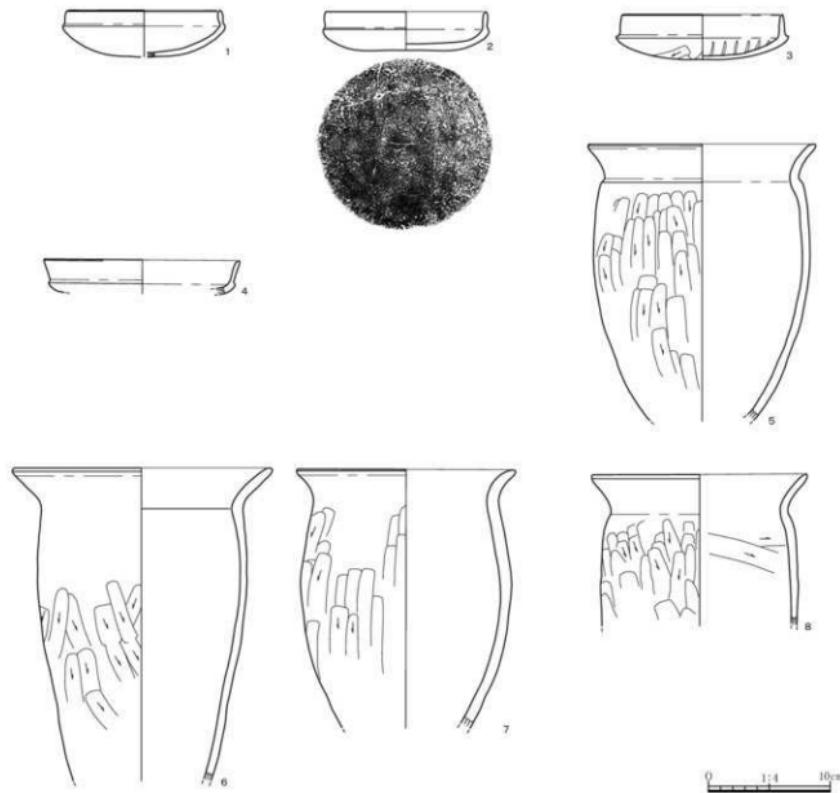
第9図 住居1平面図

## (6)まとめ

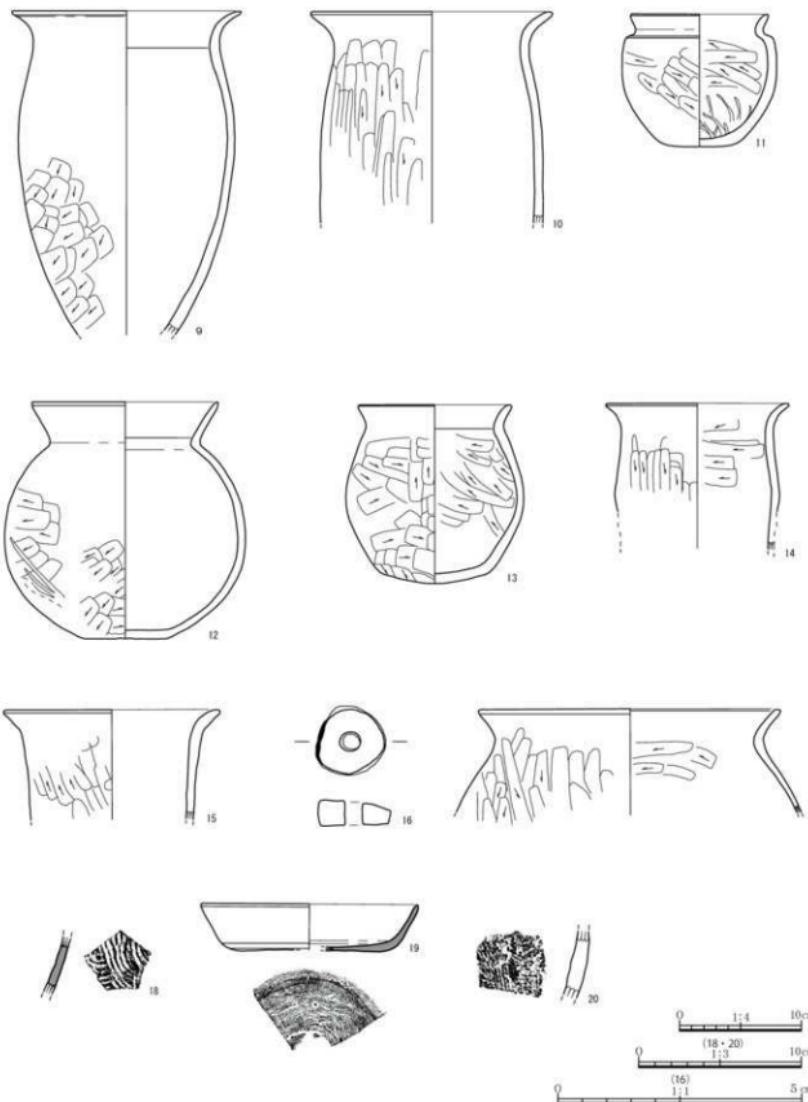
岡野・屋敷前・岡遺跡ではこれまでに5度の調査（昭和56・58、平元・24・28 A地点）が行われている。特に、昭和56年度に行われた調査では縄文時代後期の住居址が確認されている。

本地点では2軒の住居址と多くの遺物が出土した。調査区の多くで土を取ったような重機の痕跡が何箇所も確認できた。表土より20cm程度で上部ローム層に到達する状態であるのは平28 A地点と同様であり、確認された住居址も恐らく数十cmは削平されてしまっているものと考えられる。

調査の結果、保存の対象となる遺構を確認した。そのため、今回の対象地内のほかの部分に関しても同様の遺構が確認できる可能性は極めて高いといえる。しかし、今回の工事は太陽光パネルの設置であり、平面的な掘削を伴わないため、開発による埋蔵文化財への影響はあるが局所的であると判断した。また、すでに支柱が半分以上設置されており、これ以上調査を実施することは難しいため、新たな開発が行われる際に改めて確認調査を実施する必要がある。



第10図 出土遺物



第 11 図 出土遺物 2

### 3. 北小袋遺跡（平 29 地点）

遺跡番号 0054  
時代種別 繩文（散布地）  
調査地 館林市近藤町字北小袋 171-51  
調査原因 個人住宅  
調査期間 平成 29 年 4 月 19 日～4 月 25 日  
調査面積 約 30 m<sup>2</sup>

#### （1）遺跡と周辺の環境

「北小袋遺跡」は館林市の南西、近藤沼の北に位置し、旧石器・繩文時代の遺物が出土する。近藤沼から延びる大きな谷が樹枝状の支谷に分かれる舌状台地上に位置し、周辺は畑や住宅地として利用されている。

本遺跡ではこれまでに 6 地点で調査が行われている。特に昭和 61 年度の調査では、旧石器時代の石器と縄文時代早期・前期の土器片が出土している。

今回届出のあった土地は遺跡の東端付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準点の標高は 22.702 m である。

#### （2）調査の概要

工事予定区域の範囲とその地形に合わせ、南北・東西方向に L 字のトレント 1 本を設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。

#### （3）基本層序

本遺跡の基本層序は I 層～IV 層である。調査地の現況は北から南へ傾斜しており、トレントの北端と南端で 30cm ほど比高差がある。表層に小礫やガラス片、近代の瓦片などが散見される。

I 層は旧耕作土（層厚約 30cm）である。II 層は上部ローム層（褐色 10YR4/6）であり、締まり・粘性ともにある。層厚約 25cm。III 層は暗色帯（暗褐色 10YR3/4）であり、粘性・締まりとともに強い。下層は黒褐色（10YR2/3）。

層厚約 40cm。IV 層は中部ローム層（10YR4/6）で粘性・締まりとともに強い。

#### （4）確認された遺構

遺構は確認されなかった。

#### （5）出土遺物

確認された遺物は石器や繩文土器片・土師器片などであるが、小破片であり時期は判然としないものがほとんどである。上部ローム層から出土した遺物は 3 点であり、結節繩文を施す口縁部片（前期か）と、無文の胴部片である。また擾乱土中からではあるが、黒曜石製の欠損した剥片が 1 点出土した。

#### （6）まとめ

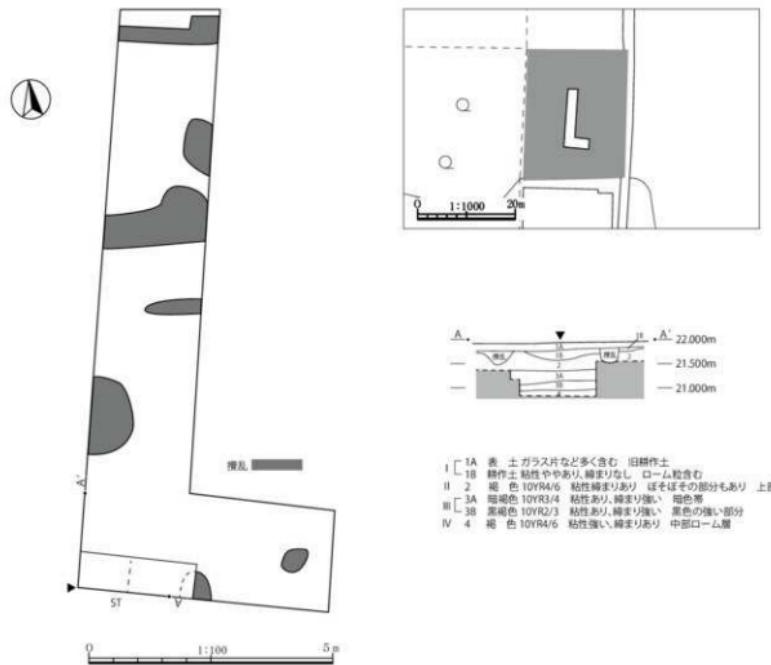
北小袋遺跡ではこれまでに 6 度の調査（A・B、平 18・20・28A・28B 地点）が行われている。特に、昭和 61 年度に今回の地点より南西、崖線部に近い場所で試掘確認調査が行われており、出土層位は明確ではないが旧石器時代の資料と考えられる黒曜石製の尖頭器も出土した。

本地点ではほとんど遺物は出土しなかったが、耕作土中から土器片や石器が出土している。姶良・丹沢火山灰（AT）の降灰層の同定をしていないため、暗色帯の層厚に不安は残るが、上部ローム層の堆積が 30cm 程度しかなく、遺物包含層（上部ローム層以上）が耕作の影響を受けていることが想定される。旧石器時代の資料を層位的に確認するためには良好な堆積状況を残している必要があることが今回の調査であらためて確認された。昭和 61 年度の調査は本地点より西方であるが、隣地は雑木林であり良好な堆積状況が残されている可能性があると考えられる。

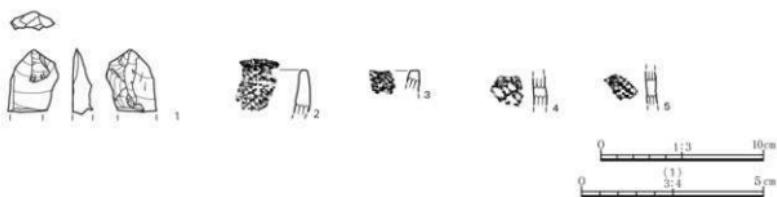
調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認できなかったことから、開発による埋蔵文化財への影響はないものと判断した。



第 12 図 北小袋遺跡（平 29 地点）の範囲と調査地（1/5000）



第13図 調査区位置と遺構配置



第14図 出土遺物

## 4. 笹原遺跡（平29 A地点）

遺跡番号 0101  
時代種別 繩文・平安（散布地）  
調査地 館林市堀工町字篠原 1881- 3  
調査原因 個人住宅  
調査期間 平成 29年 5月 12日～5月 27日  
調査面積 約 64 m<sup>2</sup>

### （1）遺跡と周辺の環境

「篠原遺跡」は館林市の南部にある旧石器時代・繩文時代・平安時代の散布地である。邑楽・館林台地の南辺で、茂林寺沼へと延びる樹枝状の谷を望む舌状台地上に広がっており、周囲には茂林寺や県指定天然記念物「茂林寺沼及び低地湿原」など自然が多く残る地域であるが、近年は住宅地などの開発が盛んである。

本遺跡ではこれまでに8地点で調査が行われている。特に昭和58年度と昭和61年度に行われた調査では旧石器時代から繩文時代の遺物が多量に出土している。

今回届出のあった土地は遺跡の北東端付近に位置し、茂林寺川が流れる谷に面する崖線部の地点であり、基準点の標高は19.110mである。

### （2）調査の概要

工事予定区の範囲とその地形に合わせ、南北方向に2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。その過程で堆積状況を確認するためにT1とT2を繋げ、コの字状のトレンチとなった。

### （3）基本層序

本遺跡の基本層序はI層～IV層である。表層では土師器片が多く散見される。

I層は旧耕作土（層厚約15cm）である。II層は黒色土層（10YR2/1）であり、下層は灰黄褐色（10YR4/2）で、締まりあり、粘性ややあり。層厚はトレンチの南で約30cm。III層はローム層（にぶい黄褐色 10YR4/3）で、締まりなし、粘性あり。湿性であり、粒子がとても細かい。

### （4）確認された遺構

溝1条と構状遺構1基が確認された。溝1は、T1とT2を横断するように東西方向に延びる。遺物の出土はなく時期・用途共に不確定であるが、天仁元年（1108）と推定される浅間Bテフラ（As-B）が上部に堆積する層を掘り込んでいることから少なくとも12世紀以降のものであると推察される。As-B堆積層から下部にかけて緑泥片岩の板状片が覆土中から縦に突き刺さるように出土しており、仮に板碑だとすると想定の年代とも符合する。遺構の性格は、東の谷に向かう掘り込みが傾斜していることから、排水用の溝である可能性が高い。

溝状遺構1は、T2を南北方向に延びており、南端部で西方向に湾曲する。As-Bと推察される砂が確認され、にぶい橙色（5YR6/4）の灰も斑状に堆積していることから降灰による一次堆積と考えられる。プランが明確でなく、東西方向5mの幅で10m程度堆積しており、遺構でない可能性も考慮されたが、東端が不自然に立ち上がっていることから構状遺構とした。ほかに耕作の影響と考えられる擾乱が確認された。

### （5）出土遺物

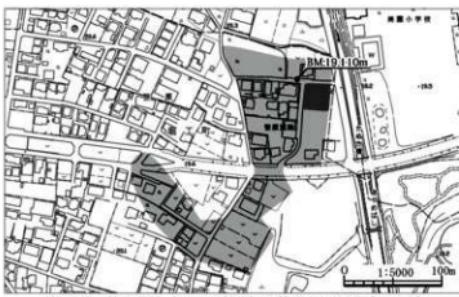
確認された遺物は石器や繩文土器片、土師器片などであるが、小破片であり時期は判然としないものがほとんどである。第17図-7は、磨り面はないが、瀬戸・美濃のすり鉢と考えられ、にぶい光沢をもつ。耕作土中以外で遺物を11点確認し、チャートの剥片や繩文土器、板碑と考えられる緑泥片岩が出土した。

### （6）まとめ

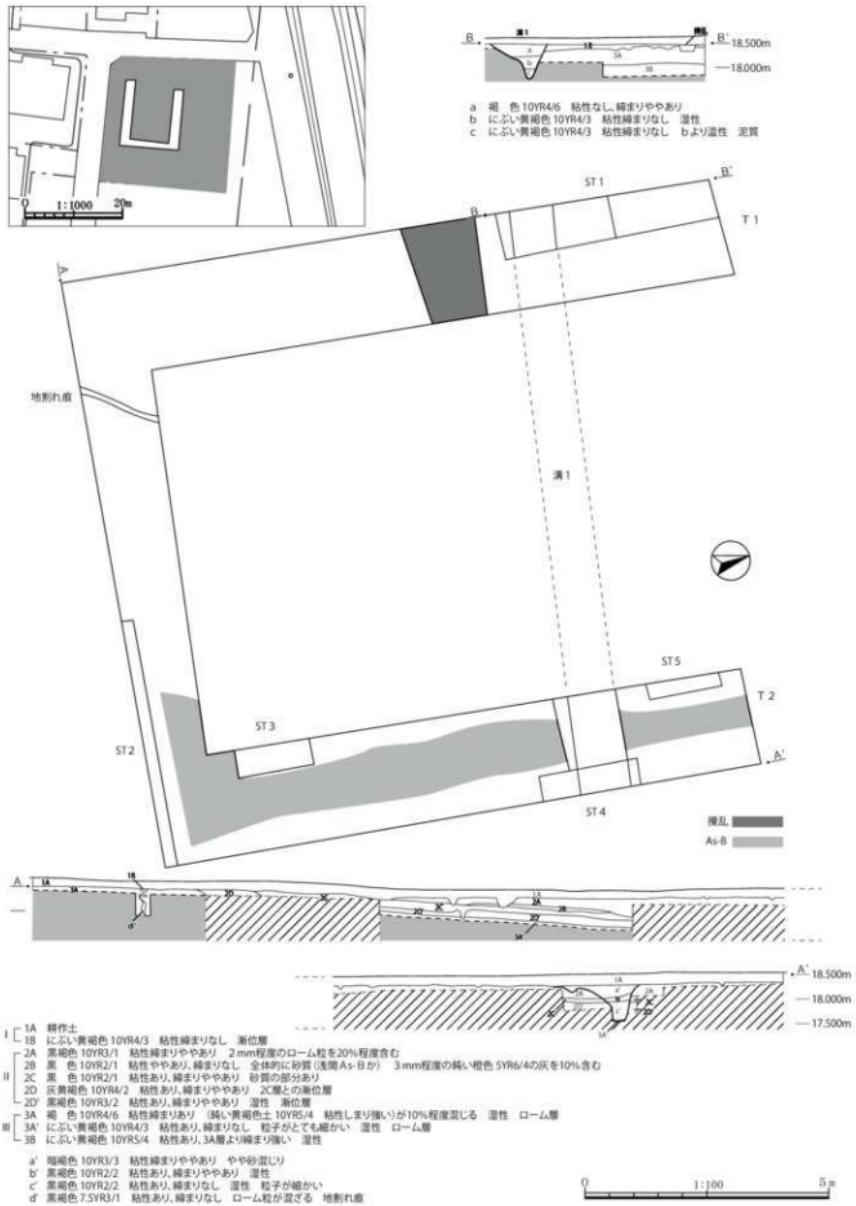
笹原遺跡ではこれまでに8度の調査（A・B、平9・10・16 A・16 B・26・27地点）が行われている。

本地点ではほとんど遺物は出土しなかったがAs-Bと考えられる降灰層や地割れ痕などが確認された。地割れ痕はローム層にはっきりと刻まれており、上層が耕作の影響を受けているためその年代ははっきりしないが、すぐ東側でAs-Bが堆積する層があるため、弘仁9年（818）の大地震の際に形成されたものの可能性がある。表面採集した遺物も土師器類が多く、石器や繩文土器はほとんど出土しなかった。

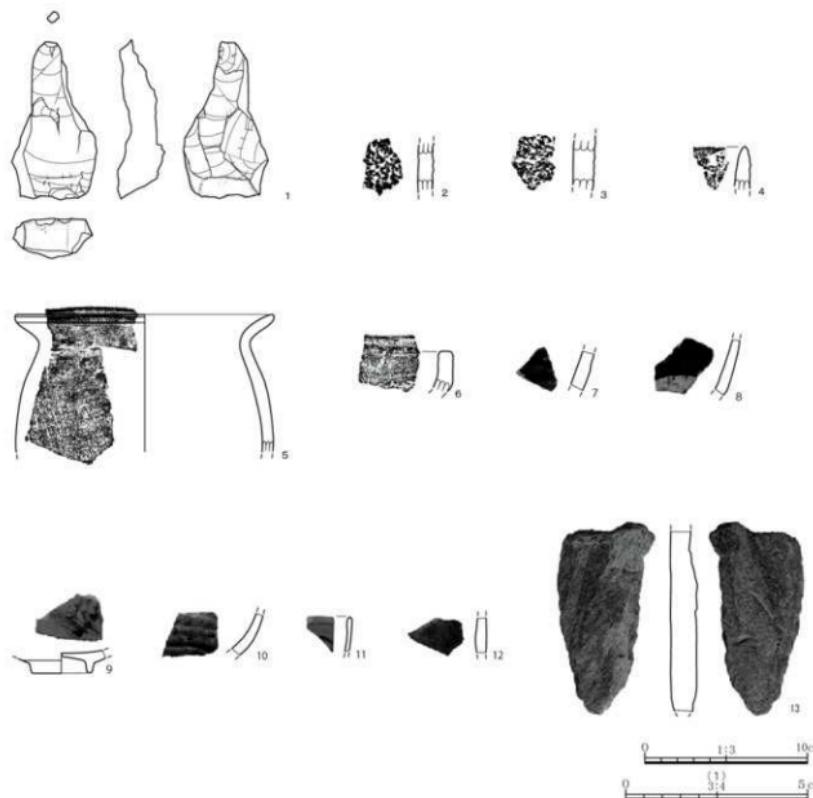
調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認できなかっことから、開発による埋蔵文化財への影響はないものと判断した。



第15図 笹原遺跡（平29 A地点）の範囲と調査地（1/5000）



第 16 図 調査区位置と遺構配置



第17図 出土遺物

## 5. 笹原遺跡（平29B・C地点）

|      |  |
|------|--|
| 遺跡番号 | 0101   |
| 時代種別 | 縄文・平安（散布地）   |
| 調査地  | ①館林市堀工町字笹原 1871-4<br>(B地点)<br>②館林市堀工町字笹原 1572-1<br>(C地点) |
| 調査原因 | ①集合住宅<br>②その他開発（駐車場）                                     |
| 調査期間 | 平成29年5月12日～5月27日   |
| 調査面積 | ①約45m <sup>2</sup> 、②約36m <sup>2</sup>                   |

### （1）遺跡と周辺の環境

「笹原遺跡」は館林市の南部にある旧石器時代・縄文時代・平安時代の散布地である。邑楽・館林台地の南辺で、茂林寺沼へと延びる樹枝状の谷を望む舌状台地上に広がっており、周囲には茂林寺や県指定天然記念物「茂林寺沼及び低地湿原」など自然が多く残る地域であるが、近年は住宅地などの開発が盛んである。

今回届出のあった土地は遺跡の南と南西付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準点の標高は19.180m（B地点）・19.243m（C地点）である。

### （2）調査の概要

工事予定期間の範囲とその地形に合わせ、南北方向に各1本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げる、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。調査原因が異なるが、同一地権者・開発者で建物に付随する駐車場ということであわせて調査を実施した。

### （3）基本層序

本遺跡の基本層序はI層・II層である。表層では土師器片が散見される。

I層は耕作土（層厚約25cm）である。II層はローム層（褐色10YR4/6）であり、締まり・粘性ともにある。

### （4）確認された遺構

遺構は確認されなかった。時期は不明であるが、重機による搅乱が少なくとも8条確認された。（B地点）

### （5）出土遺物

確認された遺物は縄文土器片・土師器片、近世陶磁器片などであり、耕作土中からの出土であった。しかし、第20図-6（B地点）は龍泉窯系の大皿（盤）と考えられ、7は瀬戸・美濃系の天目茶碗である。ほかにも肥前系の染付なども出土している。

市内ではないが、邑楽郡邑楽町のバテレン遺跡で龍泉窯系の青磁の大皿や、瀬戸・美濃系の天目茶碗が出土しており、中世陶磁器3点が『館林市史 特別編第4巻』（2010）で報告されている。

### （6）まとめ

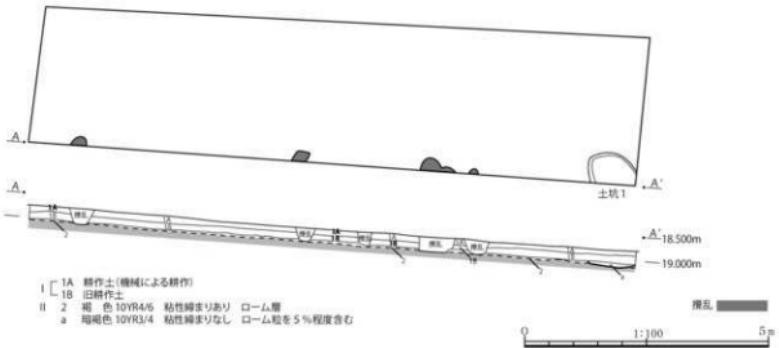
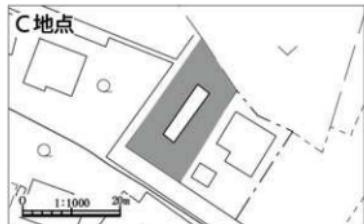
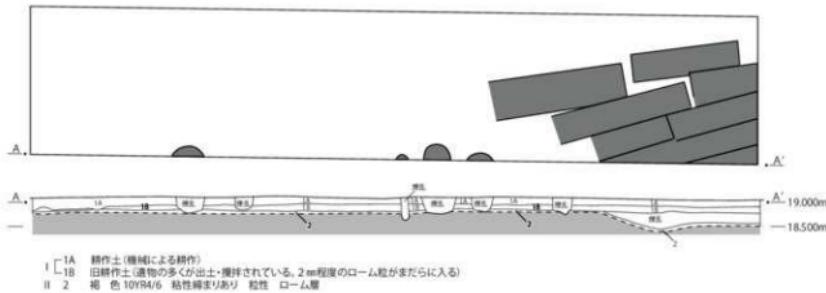
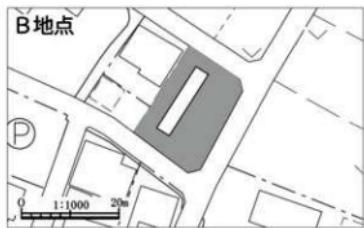
笹原遺跡ではこれまでに9度の調査（A・B・平9・10・16A・16B・26・27・29A地点）が行われている。

平29B・C地点では遺構を確認できなかった。茂林寺沼へと続く谷の崖線部付近ではあったが、なだらかな傾斜地であり全体的に遺物の出土量も少なく、C地点は、ナイフ形石器の出土した平10地点の南側であつたため、旧石器時代以降の遺物の層位的な出土状況の確認が期待されたが、耕作などで包含層は後世の影響を受けていた。しかし、当時貴重であった貿易陶磁など中世陶磁器が出土していることから、今後当該期の遺構の存在も視野に入れ調査を実施するとともに、近隣寺院との関連性も含め遺跡の評価をしていく必要がある。

調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認できなかつたことから、開発による埋蔵文化財への影響はないものと判断した。

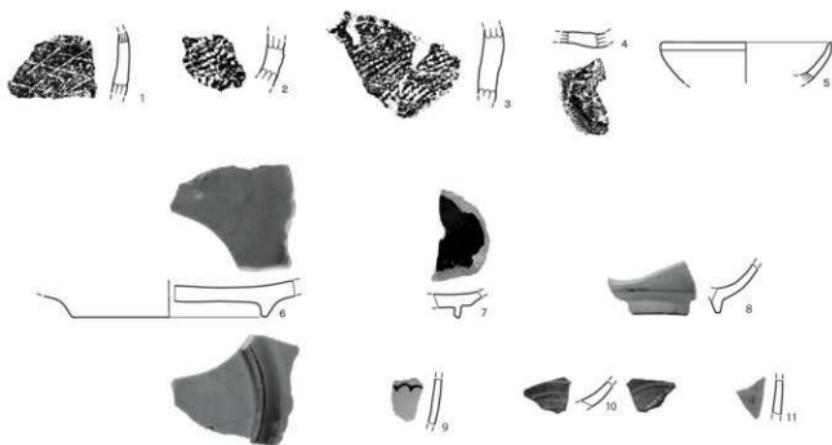


第18図 笹原遺跡（平29B・C地点）の範囲と調査地 (1/5000)

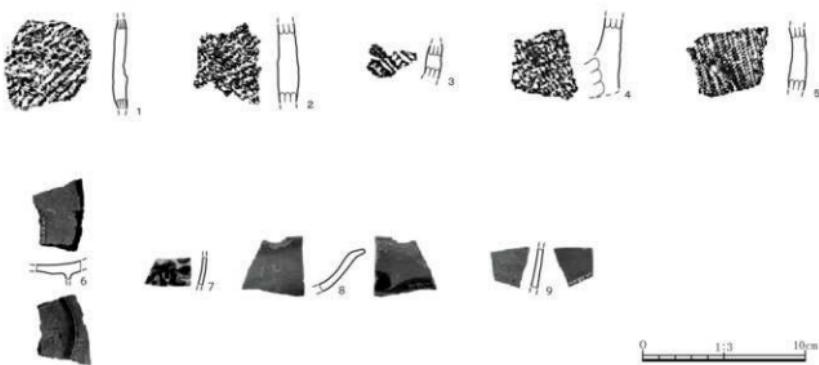


第19図 調査区位置と遺構配置

B地点



C地点



第20図 出土遺物

## 6. 館林城跡・城下町（平 29 地点）

|      |  |
|------|--|
| 遺跡番号 | 0033   |
| 時代種別 | 近世（城館）                                       |
| 調査地  | ①館林市加法師町574-2、2143-1<br>②館林市加法師町574-1、2143-3 |
| 調査原因 | ①宅地造成<br>②集合住宅                               |
| 調査期間 | 平成 29 年 5 月 30 日～6 月 10 日                    |
| 調査面積 | 約 181 m <sup>2</sup>                         |

### （1）遺跡と周辺の環境

「館林城跡・城下町」は館林市のほぼ中央部に位置する近世の城館跡である。牙城部は城沼に突出する舌状台地上に位置し、周辺地形を利用地し堀を配した続郭となる。榎原康政をはじめとする 7 家 17 代の居城およびその城下町として栄えたが、城および城下町が存した位置と現在の市街地が近似しているため、これまでの開発により城郭としての遺構の多くは失われている。城自体の遺構としては本丸・三の丸に一部土壘が残存しているのみである。

本遺跡ではこれまでに土橋門の復元や本丸、土星に係る調査が 12 地点で行われている。特に平成 27 年度に今回の地点より南西の土星推定範囲内で行われた調査では、土星の構築年代を類推するうえで参考となる資料がまとまって出土した。

今回届出のあった土地は遺跡の東付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準点の標高は 18.235 m である。

### （2）調査の概要

工事予定期区の範囲とその地形に合わせ、東西方向に計 6 本のトレチ子を設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。調査地には 2 月まで大型ハウスが建っており、その基礎杭の痕跡なども残されている状況である。調査原因は異なるが、元は同一地権者であり開発予定期も同一であるとのことから協議を行い、あわせて調査を実施した。

### （3）基本層序

本遺跡の基本層序は I 層～IV 層である。調査地の現況は西から北東へ傾斜しており、調査区の西端と北東端で 60cm ほど比高差がある。妻層に農園で使用していた素焼きの鉢等が散見される。

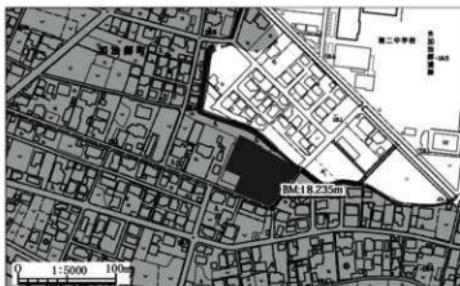
I 層は旧耕作土（層厚約 20cm）である。T 1～T 4 でシルトブロックを多く含む層が確認され、調査区東側で大規模な土地の改変があったと考えられる。II 層はにぶい黄褐色土層（10YR4/3 粘性なし、締まり強い）と暗褐色土層（10YR3/4 粘性・締まりあり）であり、下層の暗褐色土層は、湿性で斑駁も上層より多く含む。層厚約 20cm。III 層はシルト層（灰黄褐色 10YR4/2、黒褐色 2.5Y3/1、黒褐色 10YR3/2）であり、下層にいくにつれて湿性が高くなり粒子が細かくなる。層厚約 30cm。最下層以下で湧水。IV 層はローム層（褐色 10YR4/6）で、締まり・粘性ともにあり。T 5・T 4 のみで確認できた。

### （4）確認された遺構

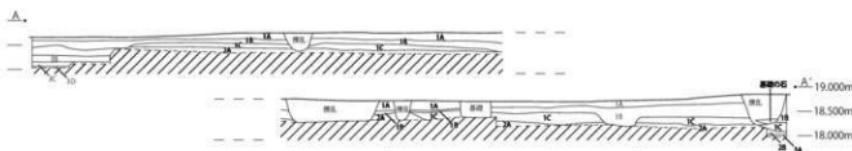
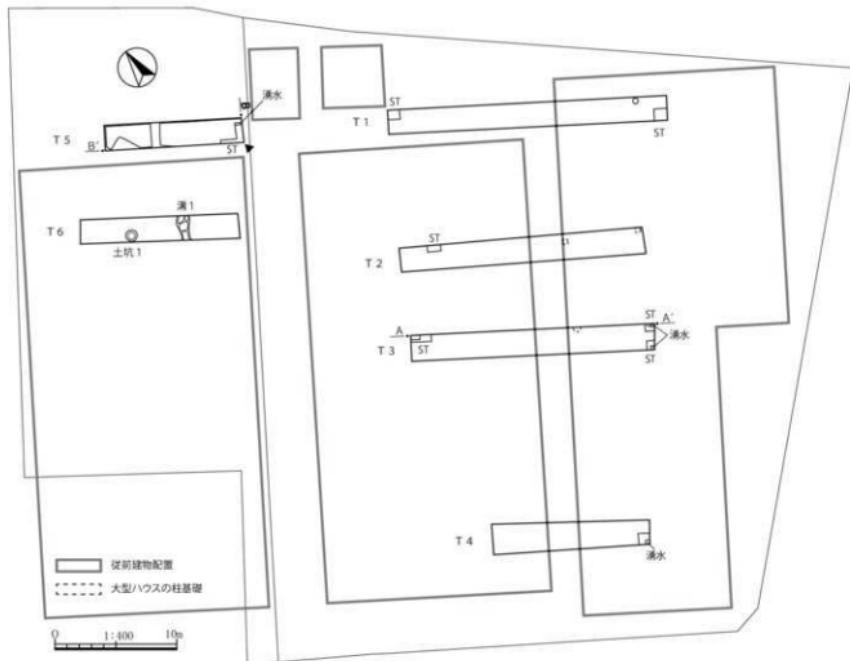
溝 1 条、井戸 1 基が確認された。ともに T 6 で確認され、溝 1 は南北方向に延びている。遺物の出土はなく性格・時代ともに不明。井戸 1 は、径 90cm の円形で、組み石等は確認されなかったが、台地上にあり地表から 1.2 m で湧水があることとその形状から井戸とした。

### （5）出土遺物

確認された遺物は土器片・陶磁器片などであるが、そのほとんどが耕作土中からの出土であった。カワラケが 2 点表土で確認でき、T 5 の表土で確認された No. 1 は高さ 2.5cm でそこまで器高はないが、立ち上がりも直線的で内面底部に圧痕があることから中世の遺物の可能性が高い。もう 1 点は器高 2.0cm 程度で中央が厚くなる特徴から、黒澤照弘氏の編年の IV 期（榎原康政入城以降）相当と考えられる。

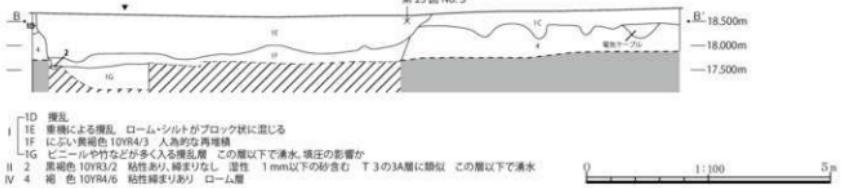


第 21 図 館林城跡・城下町（平 29 地点）の範囲と調査地（1/5000）



- I [ ] IA 田耕作土 (ハウス解体時の填压あり)
- IB 田耕作土 (ハウス解体時の填压あり)
- IC 田耕作土 (土地の成形成) 粘性強め強い シルトブロック (にぶい黄褐色10YR7/4, 塗灰色10Y5/1, 黄褐色2.5Y7/2) などがマーブル状に堆積
- 2A にぶい黄褐色 10YR3/4 粘性あり、縮まりややあり 混性 2A層より斑点が多く、明赤褐色5YR5/6が5%程度ある
- II [ ] 塗灰色 10YR3/4 粘性あり、縮まりややあり 混性 1mm程度の砂を含む ややルート質
- III [ ] 黒褐色シルト 10YR4/2 粘性あり、縮まりなし 38層より混性で粒子が細かい
- 3C 黑褐色シルト 2.5Y3/2 粘性あり、縮まりなし 38層より混性で粒子が細かい この層以下で涌水
- 3D 黑褐色シルト 10YR3/2 粘性あり、縮まりなし 3C層より混性で粒子が細かい この層以下で涌水

第23図 No.3



第22図 調査区位置と造構配置

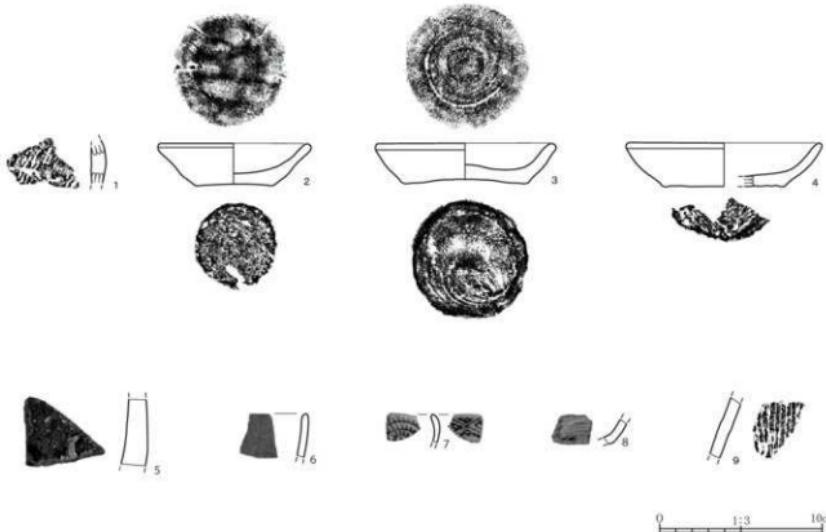
## (6)まとめ

館林城跡・城下町ではこれまで多くの調査が行われている。平成27年度に今回の地点より南西の土星推定範囲内で確認調査が行われており、土星の構築年代を推定するうえで参考となる資料がまとまって出土した。

本地点は、近世の絵図（秋元時代）に記載のない範囲であるが、調査区北に土星が現存しており、絵図では加法師口へ続く道（調査地南隣接）以南が中間町とされている。そのため、中世の城下町の有無の検討や土星の構築年代の推定、近世の屋敷地（中間町）との関連とその土地利用が課題であったが、中世・近世を通じて痕跡が希薄で、遺物の出土も表土中からであった。

湧水の標高をみると、T5東端(17.45m)、T1東端(17.35m)であるため、約25mで10cmの比高差しかなく、シルト層の勾配からも元は緩やかな勾配であったことがわかる。しかし、現地形では60cm程度の差が付いていることやT5で地表より1.5mの深度におよぶ重機による擾乱を確認したこと、その他トレーナーの堆積状況からも大規模な土地の改変が想定される。

調査の結果、台地の縁辺部であり、1.2m程度の掘削で湧水が確保できるなどらかな土地であることがみてとれた。上記課題の解決の一助にはならなかったが、城郭の変遷や当時の人びとの生活を今後も考察していく必要がある。保存を要する遺構・遺物を確認できなかったことから、開発による埋蔵文化財への影響はないものと判断した。



第23図 出土遺物

## 7. 間堀1遺跡（平29地点）

遺跡番号 0116  
時代種別 繩文（集落）  
調査地 館林市上赤生田町字上ノ前  
3493-8、3493-9  
調査原因 個人住宅  
調査期間 平成29年6月8日～6月9日  
調査面積 約13 m<sup>2</sup>

### （1）遺跡と周辺の環境

「間堀1遺跡」は館林市の南部にある縄文時代～古墳時代にかけての集落跡である。邑楽・館林台地の南邊で、蛇沼の谷を望む舌状台地上に広がっており、周辺は大規模指定既存集落の区域指定（昭和62年）を受けているが、農地も多く残されている。

本遺跡ではこれまでに7度の調査が行われている。特に昭和57年度に行われた調査では縄文時代住居址と遺物が多量に出土している。

今回届出のあった土地は遺跡の東端付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準点の標高は19.126mである。

### （2）調査の概要

工事予定区の範囲に合わせ、南北方向に1本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。

### （3）基本層序

本遺跡の基本層序はI層～III層である。従前に納屋が建てられており、調査地には砂利や礎石の一部が残る。

I層は表土（層厚約30cm）である。従前建物の影響で埴塗がかけられている。II層はにぶい黄褐色土層（10YR4/3）であり、縮まり・粘性なし。黒色土層と考えられ、上部20cm程度は従前の影響か固く縮まる（層厚約30cm）。III層はローム層（褐色10YR4/6）であり、粘性ややあり、縮まりあり。

### （4）確認された遺構

住居址2軒（縄文中期）と土坑6基が確認された。住居1はトレントの北端で確認され、一辺の長さは不明であるが、周溝が巡る。阿玉台式土器の土器片が覆土中から出土している。住居2はトレント南端で確認され、土坑4に掘り込まれている。覆土の状況から中期の住居址と類推されるが中期の土器片とともに前期の土器片も確認される。

土坑は全てローム層を40cm程度掘り込み、縄文中期の土器片などが出土している。そのほか、従前建物の建設・解体の跡が不明であるが、擾乱が確認された。土坑1の大部分は擾乱による影響を受けている。

### （5）出土遺物

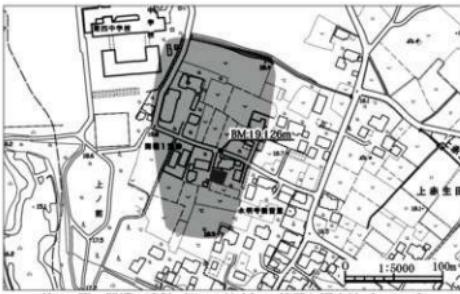
確認された遺物は石器や縄文土器片・陶磁器片などであるが、小破片であり時期は判然としないものが多い。特筆されるのは阿玉台式土器と加曾利E式土器の両方が出土していることであり、その傾向は過去の調査の結果と同様である。

### （6）まとめ

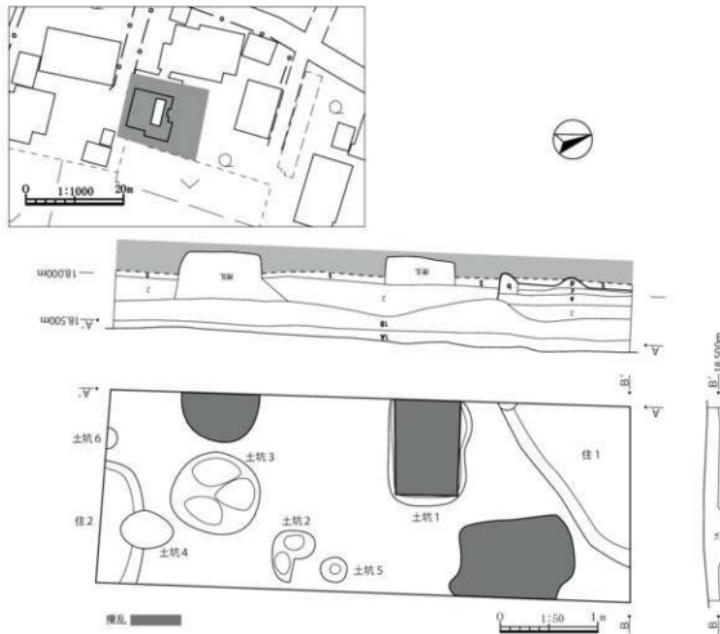
間堀1遺跡ではこれまでに7度の調査（昭和57、平19・20・21・23・24・26地点）が行われている。昭和57年度に今回の地点より北東部で本調査が行われており、縄文時代の住居址が7軒確認されている。ほかの地点でも縄文時代前期の住居址や古墳時代の住居址、旧石器時代の可能性のある縦長剥片などが確認でき、時期・遺物の量は市内でも屈指で多岐にわたる。

本地点は過去の調査地と比べると最東端であった。宅地造成予定地内の限定的な調査であったが、縄文時代中期の土器片を中心に住居址が確認された。また平21地点などは従前がツツジの栽培場所として使われているなど、縄文時代の遺物包含層の残存状況が良好でなかったが、今回の調査地は納屋の影響を受けていない部分の残存状況は良好であった。今後周辺地でも継続して調査を行う必要がある。

調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認した。しかし、関係図面と照らし合せたところ30cm以上の保護層が確保できるため「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」により、開発による埋蔵文化財への影響は軽微であると判断した。

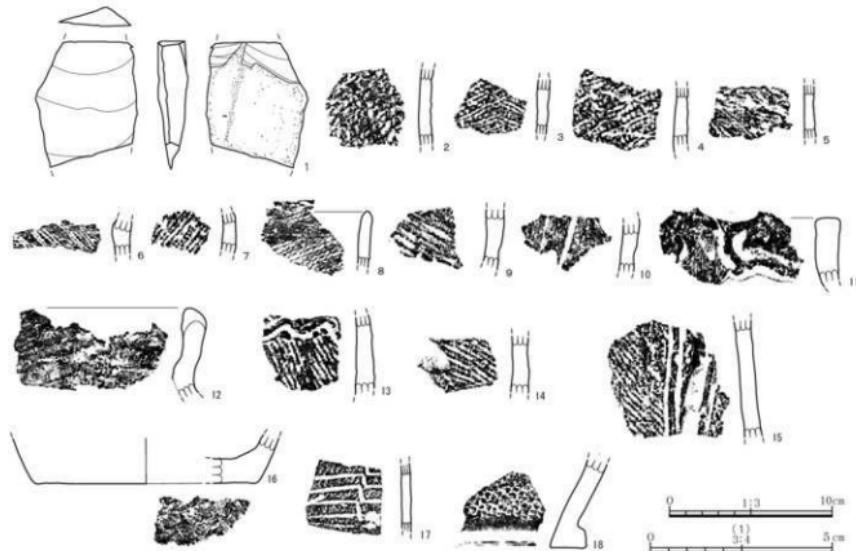


第24図 間堀1遺跡（平29地点）の範囲と調査地（1/5000）



- I 1A 農作土(耕作基盤)  
I-1B にぶい黄褐色 10YR4/3 黏性なし、繊毛あり ローム粒 2%程度含む  
II 2 にぶい黄褐色 10YR4/3 黏性弱めなし  
III 3 塗色 10YR4/6 黏性ややあり、繊毛あり ローム層
- 住居 1 a 浅褐色 10YR3/3 黏性ややあり、縮まりなし  
b にぶい黄褐色 10YR4/3 黏性あり、縮まりなし 柱穴か  
c 黒褐色 10YR3/2 黏性ややあり、縮まりあり 床面か  
d 布褐褐色 10YR3/4 黏性あり、縮まりなし

第 25 図 調査区位置と遺構配置



第 26 図 出土遺物

## 8. 四ツ谷袖屋遺跡(平29地点)

遺跡番号 0046  
 時代種別 古墳・平安(散布地)  
 調査地 館林市四ツ谷町字袖屋 398-3  
 調査原因 個人住宅  
 調査期間 平成29年7月4日～7月10日  
 調査面積 約60m<sup>2</sup>

### (1) 遺跡と周辺の環境

「四ツ谷袖屋遺跡」は館林市の東部にある古墳時代～平安時代の散布地である。城沼の北東の旧矢場川の影響を受けた自然堤防上に広がっており、周辺は水田や畑が多く残る。

本遺跡ではこれまでに調査は行われていなかった。

今回届出のあった土地は遺跡の南東端付近に位置し、崖線部から上がり平らな台地が広がる地点であり、基準とした標高は約17.5mである。

### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、東西方向に2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。

### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はI層～II層である。従前は水田耕作が行われていた。

I層は旧水田耕作土(層厚約15cm)である。下層にはぶい黄褐色土層(10YR5/3)であり、水田の耕耙層である。縮まり強い、粘性なし、やや砂質、金雲母粒3%含む。明褐色(5YR5/6)の斑鉄を15%含む(層厚約10cm)。II層は水成堆積層であり、砂質や粘性で2層にわけた。

### (4) 確認された遺構

遺構は確認されなかった。

### (5) 出土遺物

確認された遺物は土師器片・陶磁器片などであるが、小破片であり時期は判然としない。

### (6)まとめ

四ツ谷袖屋遺跡ではこれまでに調査は行われていない。

本遺跡は旧矢場川の影響を受けた自然堤防上に形成されたと考えられる。昭和33年の地形図をみると17mと16mのコンターの間にあり、起伏を確認できないが、調査地北東地点(17.5m)と南方の水路との比高差が70cmほどあり、コンターにも表現しにくい微地形がある。調査地南西の「四ツ谷稻荷神社」は延宝2(1674)年の創建と伝えられており(館林双書15巻)、遅くともそのころまでには集落を形成できる自然堤防が発達していたと考えられる。

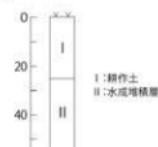
今回の調査地は水田耕作地であり、硬盤層以下の残存状況は良好であったが、堆積年代を判断する材料もなく、遺物包含層も不明であったため大部分を旧水田耕作土下までの確認に留めた。

しかし、堆積物の状況から洪水などの影響を受けながらも後背湿地のような水没かりの環境ではないことが推察され、古墳へ近世までの痕跡が確認される可能性がある。今後周辺地でも継続して調査を行う必要がある。

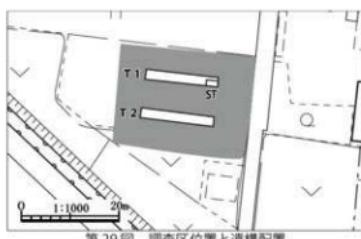
調査の結果、保存を要する遺構・遺物を確認できなかったため、開発による埋蔵文化財への影響はない」と判断した。



第27図 四ツ谷袖屋遺跡(平29地点)の範囲と調査地(1/5000)



第28図 基本層序



第29図 調査区位置と遺構配置



第30図 出土遺物

| 遺跡名               | 図版番号  | 出土地点        | 種類／器種     | 時代              | 調整の特徴、残存率など                            | 備考   |
|-------------------|-------|-------------|-----------|-----------------|--|------|
| 岡野・星敷前・岡道跡(H28 A) | 5-1   | T1 No. 3    | 陶器<br>すり鉢 | 近世              | 丹波                                     |      |
|                   | 5-2   | 表土          | 青磁染付<br>碗 | 近世              | 肥前系。見込みコンニャク印判による五弁花                   |      |
|                   | 5-3   | 表土          | 染付<br>碗   | 近世              | 肥前系。高台内館あり                             |      |
|                   | 5-4   | 表土          | 陶器<br>皿   | 近世              | 口縁部片                                   |      |
|                   | 5-5   | 表土          | 陶器<br>便利  | 近世～近代           | 銘不明                                    |      |
|                   | 5-6   | 表土          | 陶器<br>蓋   | 近世～近代           |  |      |
|                   | 5-7   | 表土          | 染付<br>瓶   | 近代以降            | 口縁部片                                   |      |
| 岡野・星敷前・岡道跡(H28 B) | 10-1  | T1 住1       | 坏         | 6世紀後葉           | 1/3 残存。くびれ部に明瞭な段あり                     |      |
|                   | 10-2  | T1 住1       | 坏         | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部一部欠け。内面に丁寧なナデ、黒色。<br>底部にヘラ彫きあり      |      |
|                   | 10-3  | T1 住1       | 坏         | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部一部欠け。暗文                             |      |
|                   | 10-4  | T1 住1       | 坏         | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部片                                   |      |
|                   | 10-5  | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉           | 1/3 残存。くびれ部に段あり                        |      |
|                   | 10-6  | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 1/4 残存                                 |      |
|                   | 10-7  | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 2/3 残存                                 |      |
|                   | 10-8  | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部片                                   |      |
|                   | 11-9  | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 2/3 残存。比熱による剥落あり                       |      |
|                   | 11-10 | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 1/2 残存                                 |      |
|                   | 11-11 | T1 住1       | 小形甕       |                 | 内面を黒色処理。丁寧な磨きあり、暗文。<br>完形              |      |
|                   | 11-12 | T1 住1       | 小形甕       |                 | ほぼ完形                                   |      |
|                   | 11-13 | T1 住1       | 小形甕       |                 | 3/4 残存                                 |      |
|                   | 11-14 | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部片                                   |      |
|                   | 11-15 | T1 住1       | 長胴甕       | 6世紀後葉～<br>7世紀中葉 | 口縁部片                                   |      |
|                   | 11-16 | T1 住1       | 臼玉        |                 |  |      |
|                   | 11-17 | T2 住2       | 広口甕       |                 | 口縁部片                                   |      |
|                   | 11-18 | T2 住2       | 須恵器片      |                 | 内・外タキ、青黄波文                             |      |
|                   | 11-19 | T2 住2       | 須恵器<br>坏  |                 | 底部回転糸切ナデ                               |      |
|                   | 11-20 | T1 横乱       | 深鉢        | 織文              | 胴部片。RLを施す                              |      |
| 北小袋遺跡             | 14-1  |             | 削片        | 不明              | 長径 1.7cm、短径 1.4cm、<br>厚さ 5.0cm、重量 1.2g | 黒曜石  |
|                   | 14-2  | T1 深土 No. 1 | 深鉢        | 織文              | 口縁部片、LRを施す                             | 前期   |
|                   | 14-3  | T1 表土       | 深鉢        | 織文              | 口縁部片、LRを施す                             | 前期   |
|                   | 14-4  | T1 表土       | 深鉢        | 織文              | LRを施す                                  | 前期   |
|                   | 14-5  | T1 表土       | 深鉢        | 織文              | RLを施す                                  | 前期   |
| 後原遺跡(H29 A)       | 17-1  | 覆土          | 削片        | 織文か             | 長径 4.3cm、短径 2.3cm、<br>厚さ 1.3cm、重量 9.7g | チャート |
|                   | 17-2  | T1 覆土       | 深鉢        | 織文              | 胴部片、RLを施す                              | 前期   |
|                   | 17-3  | T2 S T2 覆土  | 深鉢        | 織文              | 胴部片                                    | 前期   |
|                   | 17-4  | T2 S T5 覆土  | 深鉢        | 織文              | 口縁部片                                   | 前期   |
|                   | 17-5  | T1 滝2 覆土    | 土器器<br>臺  | 吉墳              | 口縁部片                                   |      |
|                   | 17-6  | T1 覆土 No. 4 | 深鉢        | 織文              | 口縁部片                                   |      |
|                   | 17-7  | T1 覆土       | 陶器<br>すり鉢 | 中世か             | 瀬戸・美濃系                                 |      |
|                   | 17-8  | T1 覆土       | 陶器<br>碗か  | 近世              | 瀬戸・美濃系。天目茶碗                            |      |
|                   | 17-9  | T1 滝1 覆土    | 陶器<br>碗か皿 | 近世              | 肥前系。京焼風                                |      |
|                   | 17-10 | T1 覆土       | 陶器<br>碗   | 近世              | 瀬戸・美濃系。丸窓か                             |      |
|                   | 17-11 | T2 覆土       | 染付<br>碗   | 近世              | 肥前系                                    |      |
|                   | 17-12 | T1 覆土       | 陶器<br>便利  | 近世              | 瀬戸・美濃系。尾呂徳利か                           |      |
|                   | 17-13 | T2 S T4 覆土  | 板碑        | 中世以降            | 銘なし。裏面に加工痕あり                           |      |

| 遺跡名        | 図版番号  | 出土地点      | 種類／器種      | 時代           | 調査の特徴、残存率など                          | 備考             |
|------------|-------|-----------|------------|--------------|--------------------------------------|----------------|
| 復原遺跡(H29B) | 20-1  | 櫻丸覆土      | 深鉢         | 織文           | 胴部片。網目に沈線を施す                         |                |
|            | 20-2  | 櫻         | 深鉢         | 織文           | 胴部片。Rのループ文を施す                        | 前期             |
|            | 20-3  | 櫻丸覆土      | 深鉢         | 織文           | 胴部片。LRを施す                            | 前期             |
|            | 20-4  | 櫻土        | カワラケ       | 近世か          | 底部片。回転斜切り、穿孔あり。                      |                |
|            | 20-5  | 櫻丸覆土      | カワラケ       | 近世           | 口縁部片                                 |                |
|            | 20-6  | 表土        | 青磁<br>盤か大皿 | 中世           | 龍泉窯系                                 |                |
|            | 20-7  | 表土        | 陶器<br>碗    | 近世           | 瀬戸・美濃系。天目茶碗。                         |                |
|            | 20-8  | 表土        | 染付<br>碗    | 近世           | 肥前系                                  |                |
|            | 20-9  | 表土        | 色絵<br>碗か   | 近世           | 肥前系                                  |                |
|            | 20-10 | 表土        | 陶器<br>碗    | 近世           | 肥前か                                  |                |
|            | 20-11 | 表土        | 青磁<br>不明   | 近世           |                                      |                |
| 復原遺跡(H29C) | 20-1  | 櫻土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、Rを施す                             | 前期             |
|            | 20-2  | 櫻土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、RLを施す                            | 前期             |
|            | 20-3  | 櫻土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片。付加条織文 (LRにRを2条逆巻き) を施す。          |                |
|            | 20-4  | 櫻土        | 深鉢         | 織文           | 底部片                                  |                |
|            | 20-5  | 櫻土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、RLを施す                            |                |
|            | 20-6  | 櫻土        | 陶器<br>皿    | 中世末～近世初<br>彌 | 志野                                   |                |
|            | 20-7  | 櫻土        | 染付<br>碗か   | 中世か          | 中国か                                  |                |
|            | 20-8  | 櫻土        | 陶器<br>皿か鉢  | 近世           | 肥前か                                  |                |
|            | 20-9  | 櫻土        | 陶器<br>碗か皿  | 近世           | 内野山諸窯                                |                |
| 館林城跡・城下町   | 23-1  | T6 8坑1 櫻土 | 深鉢         | 織文           | 胴部片。LRを施す                            |                |
|            | 23-2  | 武探        | カワラケ       | 中世           | 回転斜切(右回転)後、内面圧痕・底部板目                 | 黒沢昭弘編年の<br>Ⅲ期2 |
|            | 23-3  | T5 表土(南壁) | カワラケ       | 近世           | 回転斜切(右回転)                            | 黒沢昭弘編年の<br>Ⅳ期  |
|            | 23-4  | 表土        | カワラケ       | 中近世          | 回転斜切                                 |                |
|            | 23-5  | T5 表土     | 陶器<br>発か   | 中世～近世        | 常滑                                   |                |
|            | 23-6  | T2 表土     | 陶器<br>碗    | 近世           | 真器手碗か                                |                |
|            | 23-7  | 表土        | 染付<br>彌か   | 近世           | 肥前系。嬉唐草文                             |                |
|            | 23-8  | T2 表土     | 陶器<br>皿か鉢  | 近世           | 瀬戸・美濃か                               |                |
|            | 23-9  | T4 表土     | 陶器<br>すり鉢  | 近世           | 堺・明石                                 |                |
|            | 26-1  | 土坑3 櫻土    | 割片         |              | 長径3.4cm、短径2.8cm、<br>厚さ0.8cm、重量7.7g   | 安山岩            |
| 問屋1遺跡      | 26-2  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、Rを施す                             |                |
|            | 26-3  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、路条体 (Lを2条を交差) による回転押圧           | 前期             |
|            | 26-4  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、付加条織文 (LRにRの片巻き) を施す             | 前期             |
|            | 26-5  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、路条体 (Lを2条) による回転押圧              | 前期             |
|            | 26-6  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、路条体 (Lを2条) による回転押圧              | 前期             |
|            | 26-7  | 往2 櫻土     | 深鉢         | 織文           | 胴部片。付加条織文 (LRにR) を施す                 | 前期             |
|            | 26-8  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、路条体 (Lを2条) による回転押圧。口縁部斜状工具による押圧 | 前期             |
|            | 26-9  | 表土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、LRを施す                            |                |
|            | 26-10 | 表土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片                                  | 阿玉台式           |
|            | 26-11 | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、LRを施す                           | 阿玉台式           |
|            | 26-12 | 表土        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片                                 | 阿玉台式           |
|            | 26-13 | 表土        | 深鉢         | 織文           | 胴部片、RLを施す                            | 阿玉台式           |
|            | 26-14 | 表探        | 深鉢         | 織文           | 口縁部片、LRを施す                           | 阿玉台式           |
|            | 26-15 | 櫻丸覆土      | 深鉢         | 織文           | 胴部片、隠帶を兼け、半截竹管状工具による沈線、底を施す          | 阿玉台式           |
|            | 26-16 | 表土        | 深鉢         | 織文           | 底部片                                  |                |
|            | 26-17 | 土坑3 櫻土    | 深鉢         | 織文           | 地文LR、左方向へ沈線。磨消し                      | 加曾利式           |
|            | 26-18 | 表探        | 瓶          | 近世～近代        | 表面にタタキ痕                              |                |
| 四ツ谷袖塗遺跡    | 30-1  | 表土        | 培培         | 近世           | 胴部～底部片                               |                |

写 真 図 版



岡野・屋敷前・岡遺跡(平28A地点)

図版1



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 レンチ1精査後(北から)



4 レンチ2精査後(北から)



5 レンチ3精査後(北から)



6 レンチ2土層断面(西面)



7 調査完了

岡野・屋敷前・岡遺跡(平28B地点)

図版2



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ1 精査前(東から)



4 トレンチ2 精査前(東から)



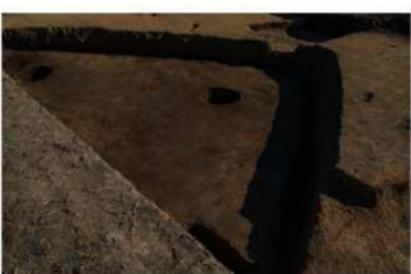
5 住居1 精査前(東から)



6 トレンチ1 土層断面(北面)



7 住居1 遺物出土状況(南から)



8 住居1 精査後(西から)

岡野・屋敷前・岡遺跡(平28B地点)

図版3



9 住居1遺物集中箇所



10 住居1遺物集中箇所



11 住居1遺物集中箇所



12 住居1遺物集中箇所



13 住居2遺物出土状況



14 住居2精査後(東から)



15 トレンチ2精査後(東から)



16 調査完了

## 北小袋遺跡(平29地点)

図版4



1 調査区全景



2 発掘作業風景



3 精査後(北から)



4 精査後(南から)



5 深掘部土層断面(西面)



6 遺物出土状況



7 土木重機による埋め戻し

## 笹原遺跡(平29A地点)

図版5



1 土木重機による掘削



2 トレンチ2精査前(北から)



3 As-B堆積状況(南から)



4 トレンチ1精査後(南から)



5 トレンチ2精査後(南から)



6 発掘作業風景

## 笹原遺跡(平29A地点)

図版6



7 レンチ1遺物出土状況



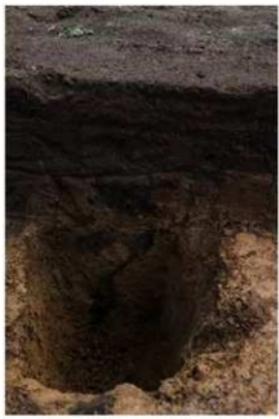
8 レンチ1深掘部土層断面(西面)



9 レンチ2土層断面(南面)



10 レンチ2溝1土層断面(東面)



11 地割れ痕土層断面(南面)



12 地割れ痕(西から)



13 調査完了

## 笹原遺跡(平29B地点)

図版7



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 精査前(北から)



4 精査後(北から)



5 土層断面(西面)



6 調査完了

笹原遺跡(平29C地点)

図版 8



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 精査前(南から)



4 精査後(南から)



5 土層断面(東面)



6 調査完了

## 館林城跡・城下町(平29地点)

図版9



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ1精査前(西から)



4 トレンチ5精査前(西から)



5 トレンチ6精査前(西から)



6 トレンチ3精査後(西から)



7 トレンチ5精査後(西から)



8 トレンチ6精査後(東から)



9 レンチ1土層断面(北面西側)



10 レンチ3土層断面(北面東側)



11 レンチ3土層断面(北面西側)



12 レンチ5土層断面(南面東側)



13 レンチ5深掘部精査後(東面)



14 土坑1精査後



15 調査完了

間堀1遺跡(平29地点)

図版11



1 精査前(南から)



2 精査後(南から)



3 精査後(北から)



4 土層断面(南面)



5 土層断面(北面)



6 土木重機による埋め戻し



7 調査完了

## 四ツ谷袖屋遺跡(平29地点)

図版12



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ1精査後(東から)



4 トレンチ2精査後(東から)



5 発掘作業風景



6 トレンチ1深掘部(東面)



7 調査完了

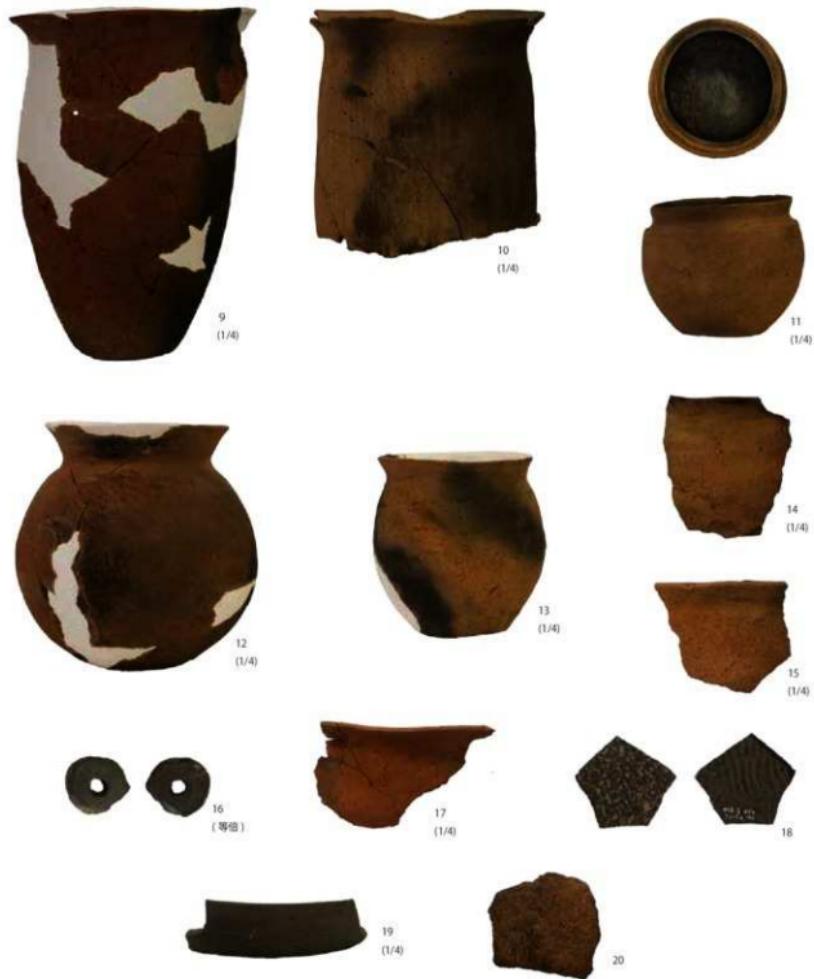
図版 13

岡野・屋敷前・岡遺跡（平28A地点）



岡野・屋敷前・岡遺跡（平28B地点）





北小袋遺跡（平 29 地点）



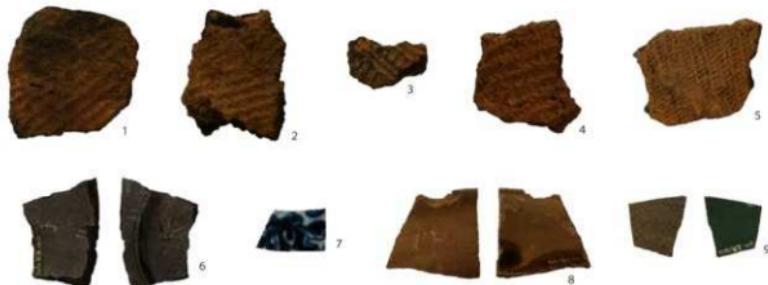
## 笛原遺跡(平29A地点)



## 笛原遺跡(平29B地点)



## 笛原遺跡(平29C地点)



図版 16

館林城跡・城下町（平 29 地点）



間堀 1 遺跡（平 29 地点）



四ツ谷袖屋遺跡（平 29 地点）



# 抄 錄

| ふりがな                   | たてばやししないいせきはつくつちょうさほうこくしょ                                |          |                            |                              |                   |  |               |  |
|------------------------|--|----------|----------------------------|------------------------------|-------------------|--|---------------|--|
| 書名                     | 館林市内遺跡発掘調査報告書  |          |                            |                              |                   |  |               |  |
| 副書名                    | 平成28・29年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査                                  |          |                            | 卷次                           | ――                |  |               |  |
| シリーズ名                  | 館林市埋蔵文化財発掘調査報告書  |          |                            | シリーズ番号                       | 第55集              |  |               |  |
| 編集者名                   | 宮田 圭祐  |          |                            | 編集機関                         | 館林市教育委員会          |  |               |  |
| 編集機関所在地                | 〒374-8501 群馬県館林市城町3番1号 TEL 0276-74-4111 FAX 0276-74-4113 |          |                            |                              |                   |  |               |  |
| 発行年月日                  | 2018(平成30)年3月30日   |          |                            |                              |                   |  |               |  |
| 市町村コード                 | 102075   |          |                            |                              |                   |  |               |  |
| 所収遺跡                   | 所在地  | 遺跡番号     | 緯度                         | 経度                           | 調査期間              | 調査面積   | 調査原因          |  |
| 岡野・星敷前・岡遺跡<br>(平28A地点) | 岡野町字南122-1の一部  | 0016     | 36° 15' 29"                | 139° 31' 44"                 | 20170113～20170122 | 約90m <sup>2</sup>                            | 集合住宅          |  |
| 岡野・星敷前・岡遺跡<br>(平28B地点) | 岡野町字南169-1   | 0016     | 36° 15' 31"                | 139° 31' 40"                 | 20170124～20170207 | 約85m <sup>2</sup>                            | その他開発         |  |
| 北小袋遺跡(平29地点)           | 近藤町字北小袋171-51  | 0054     | 36° 14' 15"                | 139° 30' 38"                 | 20170419～20170425 | 約30m <sup>2</sup>                            | 個人住宅          |  |
| 饭原遺跡(平29A地点)           | 坂工町字饭原1881-3   | 0101     | 36° 13' 51"                | 139° 31' 51"                 | 20170512～20170527 | 約64.0 m <sup>2</sup>                         | 個人住宅          |  |
| 饭原遺跡<br>(平29B・C地点)     | 坂工町字饭原1871-4、<br>1572-1                                  | 0101     | 36° 13' 46"<br>36° 13' 47" | 139° 31' 47"<br>139° 31' 46" | 20170512～20170527 | 約45.0 m <sup>2</sup><br>約36.0 m <sup>2</sup> | 集合住宅<br>その他開発 |  |
| 館林城跡・城下町<br>(平29地点)    | 加法師町574-2、2143-1、<br>加法師町574-1、2143-3                    | 0033     | 36° 14' 55"<br>36° 14' 55" | 139° 32' 57"<br>139° 32' 58" | 20170530～20170610 | 約181.0 m <sup>2</sup>                        | 宅地造成<br>集合住宅  |  |
| 間塙1遺跡(平29地点)           | 上赤生田町字上ノ前3493-8、<br>3493-9                               | 0116     | 36° 13' 34"                | 139° 32' 42"                 | 20170608～20170609 | 約13m <sup>2</sup>                            | 個人住宅          |  |
| 四ツ谷袖屋遺跡<br>(平29地点)     | 四ツ谷町字袖屋398-3   | 0046     | 36° 15' 04"                | 139° 34' 29"                 | 20170704～20170710 | 約60m <sup>2</sup>                            | 個人住宅          |  |
| 遺跡名                    | 種別   | 時代       | 主な遺構                       | 主な遺物                         | 特記事項              |  |               |  |
| 岡野・星敷前・岡遺跡<br>(平28A地点) | 散布地  | 縄文・古墳～平安 | —                          | 土師器、陶磁器                      |                   |  |               |  |
| 岡野・星敷前・岡遺跡<br>(平28B地点) | 散布地  | 縄文・古墳～平安 | 住居址(古墳) 2                  | 土師器、陶磁器                      |                   |  |               |  |
| 北小袋遺跡(平29地点)           | 散布地  | 縄文       | —                          | 石器、縄文土器、土師器                  |                   |  |               |  |
| 饭原遺跡(平29A地点)           | 散布地  | 縄文・平安    | 溝1、溝状遺構1                   | 石器、縄文土器、土師器、板碑               |                   |  |               |  |
| 饭原遺跡<br>(平29B・C地点)     | 散布地  | 縄文・平安    | —                          | 縄文土器、土師器、近世陶磁器               |                   |  |               |  |
| 館林城跡・城下町<br>(平29地点)    | 城館   | 近世       | 溝1、井戸1                     | カワラケ、近世陶磁器                   |                   |  |               |  |
| 間塙1遺跡(平29地点)           | 集落   | 縄文       | 住居址(縄文中期) 2、<br>土坑6        | 石器、縄文土器、陶器片                  |                   |  |               |  |
| 四ツ谷袖屋遺跡<br>(平29地点)     | 散布地  | 古墳・平安    | —                          | 土師器、陶磁器                      |                   |  |               |  |

---

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第55集

## 館林市内遺跡発掘調査報告書

—平成28・29年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査—

---

編集・発行 館林市教育委員会 文化振興課 文化財係(館林市文化会館内)  
〒374-0018 群馬県館林市城町3番1号 電話 0276-74-4111  
印 刷 上毎印刷工業株式会社  
発行年月日 平成30年3月30日

---